



産業調査第五輯

莫大小に關する調査

名古屋

2387



莫大小に關する調査

目次

- 一、既往の概観……………一
- 一、沿革……………一
- 二、本邦莫大小業發展の趨勢……………一六
- 三、歐洲戰亂の影響……………二二
- 四、關東震災の影響……………一八
- 二、現況……………二五
- 一、國民生活と莫大小需要の關係……………二五
- 二、組合……………三一
- 三、工場數……………三六
- 四、職工……………三七

本編は總務部勸業課の調査に依り執筆參考の爲體宮に代へ印刷に付したものである

大正十四年四月

五、機械臺數	四一
六、製造工程の概要と原價計算	四三
七、原料の需給	四七
八、綿絲相場と莫大小の關係	五〇
九、全國上半期成績	五三
十、生産品の種類	五六
十一、生産額の消長	五八
十二、製品取引の狀況	六三
十三、内地需要の趨勢	七〇
十四、海外輸出の趨勢	七五
十五、金融	八四
十六、斯業の特長	八六
一、生産の簡易と資金の運轉	八六

二、機械價格と其能率	八七
三、生産品種の限定	八九
四、機械据付面積、動力、職工受持臺數	九〇
十七、斯業の欠陥	九一
一、機械の劃一的なること	九一
二、針の破損と織班	九二
三、家庭工業と製品の不統一	九三
四、職工養成機關	九五
五、整理の不完全と原因	九六
六、仕上の不備	九七
七、シャツ類目方販賣の弊風	九七
八、英國向製品の缺陷	九八
十八、斯業の位置	一〇二

三、將來の方針	一〇四
---------	-----

一、經營組織の改善	一〇四
二、研究會の設置	一〇六
三、徒弟教育の必要	一〇七
四、種類の制限と單純化	一一〇
五、生地販賣と時代の要求	一一三
六、販路の開拓	一一四
七、専用原絲紡績の必要	一一八
八、輸出取引の改善	一二九
九、綿絲關稅撤廢について	一二二
十、金融に對する方策	一二三
十一、毛莫大小に就いて	一二五
十二、絹莫大小製産の有望	一二七
四、結論	一二九

一 既往の概観

一、沿革

遠く莫大小の沿革を採るに、西曆一千五百八十九年英人ウヰリアムターと稱する者が手絹に模倣したる靴下編織機を創製したる以來の發達にして、現今コットン式編織機、圓形編織機、橫編織機、自動編織機等であるが、機械の精粗は固によつて同一でない、英國は最も緻密なる機械を使用し居り、手絹の如きは今や殆んど崩滅するに至つた模様である。

我國に於ては既に豊臣氏時代西、葡人の來航に依り輸入せられたるものにて、手絹法は徳川氏の世享保の頃蘭人の用ひし手袋にて傳授せられ、明治初年以來靴下、手袋、印形入、巾着等家庭に於て編み造られしが、明治三年莫大小肌衣の輸入品初めて大阪に着したるも本邦人の體格矮小にして、直ちに之を着するを得ず、此頃上田長次郎なる者横濱外商より俗に百本小丸と稱する靴下製造機械を購入して開業すると同時に、二三の省瑞西製織機を買ひたるも、使用法不明の爲め未だ開業するに至らなかつた。

此時に際し大阪の小西藤兵衛苦心研鑽の結果連轉方法を會得して開業したが、是亦技術不熟練の爲見込がなかつた、官邊に於ても産業獎勵の趣旨に基き機械を購入し之が製造に従事せしむる必要少なく製品も亦粗造であつた、次いで小西藤兵衛瑞西製釣機を設備し、漸次營業を擴張し同五年京都博覽會に於て自ら公衆に向つて之が使用を説明して製品の得失便否を知らしめたので需要頗る増加し、同年神戸の亞米利加

商部の手を経て米國に輸出せられ翌年海關に輸出して名譽を得し需要益を増加するに至り、東京、大阪の各地に同業者大に増加したるも當時其原料は印度のボンペーより輸入したりし爲め製品の價格廉なる能はず、從て清國の如き生活程度の低き國民には適せずして輸出は全然杜絶するの狀態に陥つた。

然るに明治七年の頃より關西各鐵道に於ける兵士の肌衣に用ひられ、商況假に盛なりしも海外輸出は依然沈滞の姿であつた、其後同業者は工夫を凝し労働者尙の廉價品を輸出して稍之を挽回したるも、西南戰爭の起るに及び經營界の事情は遂に一般産業の不振を來し、斯業も亦影響を蒙る事大にして、同業者中轉廢する者多かりしが、小西藤兵衛は刻苦勵志が回復を計り、明治十一年裏毛莫大小の發明を爲し忽にして好評を得し、茲に再度斯業に従事するもの續出するに至り、其製品は舶來品に擬擬たるものを用ひ、同十七八年頃には輸入品を壓倒するに至つた。

是に於て岩崎業等は當局保護の下に見本を作成し之を各國駐在の領事に送附して試賣せしが、非常の賞讃を得するに至りしかば、同業者も増加して百數十人の多きに達し、動もすれば競争を試み弊害を醸成せんとする形勢を呈せしを以て、大阪に於ては府の認可を経て組合を組織し各自の利害を研究して之が改善進歩に努めたるが時恰も紡績事業の勃興に際會し、原絲の供給を海外に仰ぐの必要を見ざるに至り、莫大小の價格は約三割低減したりしかば、需要頗る増加し同二十四年に於ては同業者每月相會して競賣市會を組織し競賣、及商賈の攷究を爲す事となり、斯業も愈々好況を呈するに至つた。

降て日清戰爭に際し輸出は多少減退の狀況を示したと雖、他の産業と趣を異にし内地の需要益々多く、殊に戦後經濟界の發展と共に著しく進運に向つた。而かも二十六年小西等の發起せる株式會社は從來の天日乾燥法に依る漂白が鋼底多額の生産に適せざるを看取し、茲に蒸氣機關を装置し技師を海外に派遣して、新式漂白法を採用した、最縫針の如きも從來輸入品のみなりしが新に之が模倣をなし、而も高時清右衛門が發明せる模倣丸縫織機械は成績佳良にして、輸入を防遏したるも同三十三年、四年頃の對界の恐慌により製造家の倒産するものが多かつた、其後日露戰爭中は我軍用品として需要大に増加し、尙戰勝の結果清韓地方及び印度方面に販路開けしが、歐洲大戦に入りては歐洲品の東洋に來るもの全く杜絶し、東洋各市場に於ては我製品が獨占となり、斯業著しく發展し手組の如きは寧ろ一女子女の樂業的手工として靴下、袋物等を製するに止まるに至つた次第である。

顧て名古屋に於ける莫大小の沿革發達の經過を概観するに、本市は東京、大阪の中間に位し、地勢上古泰高、工業樞要の位置を占めたるのみならず、殊に織物の産地として有名なり、されば時勢の進運に伴ひ、東京、大阪に與れる新事業の忽にして亦此地に全畫せらるゝは當然にして、織物に類似のメヤス業の如き逸早く着手せられたるは怪むに見らぬのである。

本市に於て始めて莫大小の製造を試みたるは、中區古渡河後藤新之助の祖父にして、明治六年頃なりしと云ふも、其年紀に就ては多少の疑あり、何とせば明治四、五年頃東京、大阪に於て漸く萌芽したる斯業が斯く速かに傳播せしとは信じ難いからである、降て明治十八年に至り西區堀詰町佐藤季智が東京より丸ゴム機械を購入し來り、靴下製造に着手したりと云ふが是れ恐らくは本市莫大小業の開祖とすべきものであらう、然も其製品は軍隊用と稱する粗笨のものに過ぎず同人は其後間もなく廢業したと云ふ。

明治二十年九月、東洋紡績株式會社々長たりし伊藤傳七氏が川北晋松を大阪に派遣し、小西藤兵衛に就て

斯業を練習せしめた、川北は翌二十一年歸名し、後西區上長者町に鬼頭莫大小商會を起し、メリヤス製造業を開始した、當時使用したるものは釣機にして、製品は肌衣類であつた。

斯くて本市のメリヤス業は稍其端緒を開きたるが、之に伴ふ加工業も自然創始せられ、明治二十五年川北晋松は近藤廣吉と謀り漂白業を経営したるを始め爾來斯業の發展に従ひ洋服業を開始するもの漸次多きを加へ、又鹿ノ子ペリは同年川北に依りて本市に移入せられ、之を襯衣に應用して發賣し、一時「名古屋鹿の子ペリメリヤス」と稱し、名を成すに至つた、更に翌二十六年に及び中區鐵道町渡邊合資會社は小丸機械を用ひて手袋を製造し、後間もなく横機を移入し稍完全なる手袋を製造すに至つた。

斯業は此の如く漸次發達して、同業者の數を増加し、機械も亦各種多數移入せらるゝに至つたが而も機械の破損に際し、其都度東京、又は大阪に送りて修繕せしむる事の不經濟にして、且つ不便なるを遺憾とし、明治三十三年深井静太は西區堀江町に機械修繕業を開き、莫大小機械の修理を行ひ後年に及び靴下機械を製造するに至り、本市莫大小界の進歩に資する處あり、其後深井五次郎、森部銀次郎、荒川儀三郎等相逐いで機械製造業を起した。

爾來製品の改良行はれ、生産額も亦増加し就中區福宣町荒川儀三郎は軍隊用として多額の靴下製造を請負ひ、納入しつゝあつたが、其間東京より改良畦編靴下機械を購入し、軍隊用以外の靴下製造に努め從來の機械指と稱する拇指靴下を密計機に依りて加工し、其方法を當地の斯業界に傳播して、産額を増加し本市の縫指長靴下が全國を通じて比較的低廉に販賣せらるゝの進捗を示した。

是より先明治三十一年合資會社莫大小商會は英國より發動機を購入し、之を釣機械の運轉に應用し、以て動力使用の範を示し、降て三十九年市外愛知町に名古屋起毛合名會社を創立し、最新式起毛機を操付け、從來甚だ幼稚にして、損失多かりし當地の起毛工程に一大進歩を興へ、製品改良の實を收むること妙からざりしが、其後浦川善一、徳水佐市等も亦斯業を營み以て名古屋の莫大小製造業に於ける各工程機關の完備を見るに至つた。

抑も名古屋のメリヤス業が今日の發達を來せるは、素より一般需要増加に伴ふ漸進的進歩なりとは云へ、其間一躍長足の進歩をせるものは、東京、大阪等と等しく、戰爭の影響にして、日露戰役の際、南區熱田中瀬町猪村商會の製造に係る防寒服着の如き、軍用として多大の需要を喚起し、従て本市の斯業をして一般に好況ならしめ、此に誘はれて新に斯業に着手するものを生じ、茲に一段の發展を示したのである。而して一面には、明治四十一年に至り、加藤尙良が釣機械運轉に電力を應用したるを動力應用の第二革新として、同業者之に效ふもの續出し、勞力の減少、生産費の節約、産額の増加、製品の統一等となり、漸次好成績を示すに至つた。

明治三十九年猪村謀吉、佐藤松三郎等の主唱に依り同業組合を組織したが、明治四十一年之を解散した、其後明治四十五年に佐藤松三郎の唱道により名古屋莫大小信用購買販賣組合の設立を見るに至つて大に莫大小業を組織的に進歩せしむるに努めた。

斯の如くにして事業上にも進歩發展を來しつゝある際、大正三年歐洲戰亂勃發するや本邦の輸出漸次増加すると共に本市のメリヤスも亦頗る活況を呈し一新紀元を作るに至つた。

降て大正六年に有志相謀り、名古屋莫大小同業組合を組織し、而して検査法施行の關係より日本輸出莫大

小同業組合聯合會設置と共に之に加盟したのである、爾來聯合會と共に或は郵船運賃引下、或は英國メロヤス禁輸反對、或はメロヤス課税反對の運動に参加して活動努力する處あつた、要するに名古屋莫大小業は品質の堅牢を主として、専ら舊套を墨守し安價な品物を製造するを特色として居るの實相である。

二、本邦莫大小業發展の趨勢

メロヤス業の本邦に傳來して以來、其間一般經濟界の盛衰に伴ひ他の事業と等しく時に多少の浮沈は免れざりしと雖、大勢は毎に寸退尺進の歩調を以て今日の發達を致した、元來メロヤスは本邦に在りては、軍事と頗る密接な關係あるもの、如く、即ちメロヤス業が先づ其萌芽を擡げたるは、兵制改革によりて洋靴を用ゆるに至りたるため、之に必要な靴下を製造するに起因し、爾後其飛躍發展も、一面は常に軍事戰役に際して助長せられたるは見逃し難き實相である。

横濱市太田町の伊勢屋勝三事西村勝三が斯業開始以來其最新なる他に同業者多からざりし一事は、偶々維新の改革に因り新に衣食の途を求めざるべからざる士族等の中、最も適當なる事業と等しく時に多少の浮沈は免れず、相違ふ利益を地獄し、以て家業の基礎を確立せんと欲し、或は藩自ら藩士前途の爲めに斯業を企圖するもの等ありて慨然として勃興したりしも、其製品は何れも單一なる靴下に過ぎざりし爲め、官吏、兵士、船員等を除きては、洋服を着用するもの少かりし當時に在りては洋靴を穿く靴下を用ゆるもの亦稀に、従つて一般のメロヤス需要は微々たるものにて、岡鐵堂の兵士を主たる華客とせしが、其陸軍御用は疾くより伊勢勝の手に占められたるため、一般製造業者の手に成れるものは第一に販路を求むるに窮し、漸時經營

に困難を來して癩業の止むなきに至り、或は前途を悲觀して休止するもの等續出し、一時非常の勢を以て發展の端緒に着きし斯業も爲めに頓挫を來すに至つた。
本邦の兵制は其後悉々整備の歩を進め、全國に徵兵令を布きて壯丁を集め、新に二鐵堂を増加して六鐵堂となしたるにより軍用靴は次第に需要を増加したるに際し、明治七年佐賀に江縣新卒の亂起り、鐵堂兵を繼出して之を征伐するや、靴下の需要は一時に其數を増加し、各鐵堂にて隨意に之を購入したるため、各地の同業者は始めて均播するを得、一時に好況を呈した。

明治八年、朝鮮江華島事件勃發せし際は兵士の用ふべき靴下十萬足を五週間に調達すべき命あり、靴下十萬足は今日より見れば實に些細なるも、機械、職工等の設備未だ十分ならざりし當時に在りては、決して容易の事に非ず、加之、僅々五週間の日限なり若し違ふ時は貳百圓の制裁があるため、同業者中容易に之に應ずるものなかりし、大膽にも之を引受けたるは三井事三河屋其兵衛である、三井之を引受くるや、八方に奔走して機械を集め、又新に機械を製作せしめ、職工に賃銀を増加し、晝夜兼行必死の努力を以て製造せしめ、副金を納むる事三回、漸く所定の額を納めたのである、江華島事件は折衝其宜しきを得、出陣せずして落着したるも、十萬足上納の事は斯界の一大奇蹟となり從來の規模を擴張するものあり、新に斯業を創始するものあり、更に隆昌の機運を開いたのである。

越えて明治十年西南戰爭の事起りたるに軍隊は維新後西洋式に則り訓練せられたるものなれば、服裝悉く絨服を用ひ、従つて多額なる靴下納入の命下り、其數景前年の比に非らざりしも、當時は既に斯業者の設備整頓し、機械の數も亦多し、従業者の數も増加し居たるにより前年の如く狼狽せず、勿論稅業も續行して

東西の産地一時非常の繁忙を極めたるも、無事其数を充たし得たるのみならず、一面技術は次第に進歩し、單に靴下に止まらず、褌衣、ズボン下等をも製造するを得て此等の諸品をも軍需品として買上げられた、前記の如く一時的とは云へ、當時の好景氣は技術上に多大の刺激を與へ、製品亦進歩を來たすと共に、從業者も頗る増加し茲に第一期の發展を實現したのである。

其後明治二十七年に至り陸邦支那と干戈を交むるに至るや兵制改革後初めての對外戰爭なるを以て、規模頗る大に出兵の数も亦甚だ多く諸般の設備は從來の出陣の比に非ず、従つてメリヤスの需用は實に莫大なるものであつた。

戰時状態に在る事約一年有年不及し爲め、買上用品は勿論、一般國民の出征兵士慰問贈與等に、メリヤスの需要は實に驚くべき勢であつた、従つて此間斯業界の繁忙は實に本邦未曾有の隆盛を招來した一方製造技術は已に十有七年間の經驗と熟練を積みしを以て、其應用區域は擴張せられ、褌衣、ズボン下、靴下、手袋等は言ふを須らず防禦用被服類等各種の製品に亘つて其活況は筆紙に盡し難き有様であつた、即ち此に於て斯界第二期の隆盛時代を劃したのである。

に時的突飛なる經濟界の膨脹は戰後其反動として、間もなく一般事業界の沈衰を現出し、不景氣は襲來しメリヤス業も亦其影響を免るゝを得ず、少時難伏の時代に入りしが再び爰に斯界を刺激する一大事件の發生を見た、即ち三十七八年の日露戰役である、敵は歐洲の大國にして、國廣く人多く實に世界の強兵なるを以て、我軍の準備は萬遺憾なきを期し軍需品の供給には全力を傾注し、軍服は勿論メリヤス被服類は一層精巧なるものを以て之に充て、其類は亦頗る大なるものであつた。

戰時中斯業界の活況に付いては贅言を費すの要なきも、戰爭終了の後も更に優越の發展を致し、工場の擴張、從業者の激增を招致し爰にメリヤス業界第二期の黄金時代を生んだ次第である。

大正三年に至り歐洲戰亂勃發し我邦は東洋の平和を確保するため、獨逸軍を青島に一掃し、獨艦をして南洋に其隻影を止めしめず、初は大戦に直接の交渉なかりし爲め、軍需品としてメリヤスは甚だしく動かざるしも、然も泰世界に於ける最も多額のメリヤス供給國たる獨逸が、戰爭のために生産能力を激減したることより、對外貿易は殆ど不可能となり、從前獨逸の供給を仰ぎ居たりし諸國は代用品を他に求めざるべからざるに至り、自然我國メリヤスの需要俄然激増し、斯業界は茲に第四期の大發展を告げるに至つた、加之其需要品は東洋、南洋方面に對するもの多趣を異にし、概して精巧なるものなるを以て、大に技術の進歩を促し以て本邦メリヤスは世界的地歩を占むるに至つた。

其後戦局の進展に伴ひ獨逸海軍の威風凜凜甚しく、同盟國側の船舶にして駆逐の厄を被るもの漸く多く更に一面に於ては國內の食料缺乏を告げ、之を他に仰がざるべからざるのみならず、其他兵艦並に軍需品の輸送等に船腹の不足を告ぐるに至りたるにより、英國は船腹調節を理由として、メリヤス製品の輸入を禁止したるも其内實は、開戦以來我國及び其他の諸國よりメリヤス製品の輸入頗る多額に上り供給過多の現象を示し爲に市價頗る低落し同盟國業者の不利尠からざるにより、當業者等は政府に要請して輸入禁止令を發布せしむるに至つたのである。

然るに英國が本邦に向つてメリヤス製品を注文せし當初は其需要額餘に多大なるのみならず、彼は斯界の先進國にして本邦製品が果して彼等の嗜好に適するや否や聊か躊躇せし者ありしも先づ技術上充分の注意

を拂ひて見本を提出せるに直ちに其是認する處となつた、此種は彼我の國交上最も有意義にして且つ將來永遠に取引を持続すべき默契ありし爲め當業者の多くは直ちに資金を増し工場設備を擴張し、工手を養成する等單に利益上の問題に止まらず親善なる同盟國の不便を充すべく其証文に應ずるに至つた。

斯も事情の存するに拘らず英國政府が國內一部の當業者利益保護のために友邦の商權を蹂躪するこの不當なるのみならず、之が爲め蒙るべき本邦當業者の損害、延て幾十萬職工の困乏決して黙過する能はざるものあるより、大阪當業者は先づ断起して我政府當局に對し或は陳情書を提出し或は東上して當路大臣に面接要請して全國メリヤス業者大會を東京に開き、大に反抗の氣勢を示し、各新聞社亦大に英國政府の不當を喝せしめ英國は之を緩めすべく、再度輸入禁止令實行を大正六年三月末迄延期したるも、本邦當業者は斯を姑息の手段に満足すべしに非ず、英國若し我輿論の聲に聽かずんば、政治問題として國交を断するも之を争はんとし、大阪、東京、名古屋、横濱、神戸等の當業者は倍々勇を鼓して政府當局に迫ると共に、府市選出代議士に要請する處あり、又一面東京に各政黨本部を訪ひて意見を吐露し、議會會期の近づくに當り、貴衆院議員に對し、英國メリヤス輸入禁止の不當なる理由、依て以て當業者の蒙るべき打撃及び延ては本邦産業の發達を阻碍せらるる所以を詳述したる請願書を配布し、我政府當局をして英國政府に向ひ、極力解禁を要請せんことを訴へたるに、英國政府も此等の形勢に鑑み處ありしが遂に大正五年十二月二十二日を以てメリヤス輸入禁止令を撤廢するに至つた。

斯の如くにして漸く解禁せられたる英國のメリヤス輸入は、爲めに一度頓挫したる斯業界の景氣を回復すべく、多大の豫望を以て迎へられたるに、爾後二ヶ月に充たざる大正六年二月二十三日、英國は再び船腹調節の理由の下に、一時六十四種の品目に對して輸入を禁止し、曩に一旦解禁したる我メリヤス製品をも其内に包含せしめたのである、如何に戰時非常の際とは云へ朝令暮改も亦甚しく、實に友邦の商權を蹂躪せらるるとして當業者の議論を沸騰したのである。

是に於て同業者は再び断起し、我政府當局に向つて英國政府の不法を訴へ、前回の禁輸に比し當業者の蒙る打撃は一層深甚なる事情を具し、メリヤスに對しては特に禁輸より除外せらるべき理由を附し、解禁に對して盡力を懇請し、更に東西の同業者相提携し、英國の主張する船腹不足の理由を打破すべく、郵船會社に交渉したる結果、特にメリヤスの爲め船腹増發の約を結び、該契約書に連署して政府に提案する等、極力解禁を努めたるが、英國は一九一六年（大正五年）に於て本邦より輸入したるメリヤス製品重量の五割の輸入を解禁する旨、五月十九日公報に接し、併し乍ら半数解禁の如きは、本邦當業者が英國へ輸出するに有利なるものに非ず、相互の苦痛依然たるものあれば、當業者は無條件の輸入を要請すべく尙も極力運動を持続したのである。

英國再度の禁輸問題は我メリヤス業界を震撼し、發展の氣勢を挫きしこと多大なりしが上に、大正六年に入り頗る未曾有の暴落はメリヤス製造の上にも甚大なる打撃を與へ、個々証文あるも値段引合はず、一般輸出の頓挫を來し、斯業界は恰も伸びんとする尺蠖の蟄居時代に在るが如く、少時沈靜を持続せるが、其間に在りて英國は漸に歐洲戰爭に参加し、聯合國の軍需品其他の戰時必需品を供給する立場となりてメリヤスの如き普通工業は勢ひ間却せられ、其補給を我に仰ぐ傾向を生じ、同國方面より始めて証文發到し、

先づ靴下、手袋等より商談整ひ、漸次其他の諸品に及ぶが如き趨勢を示せりと、近時我メリヤス製品の輸入漸次盛なる深淵が、七月一日より贅澤品輸入を禁止せるも、メリヤス製品の之に包含し居らざる事は本邦新業界の頌勢を幾分挽回すべく囑望せられたのである。

斯の如く歐洲戰爭によりて端なくも異常の發展を來したる我メリヤス輸出は、英國の半數解禁により一機の命脈を持續したりが、爾後大正八年に入りては輸入メリヤスに課税せんとし、更に同年三月に及び斷然禁輸を行ふに至れるにより我營業者は英國の關稅的朝令暮改に大に憤慨し、大なる決心の下に「對英莫大小解禁期成同盟會」を起し、全國メリヤス業者大會を開きあらゆる方法によりて強志の貫徹に努めたる結果遂に同年八月英國はメリヤス輸入禁止令を撤廢するに至つたのである。

英國の解禁は我新業界を一時不況より救助すべく見えたが其豫期は不幸にして裏切られ、其間世界的大勢に伴ふ諸物の騰貴は原料たる綿糸、並に工資を著しく昂騰せしめたる爲め、従來我國製品の誇せせる價格の低廉は、最早之を高唱し能はざるのみならず、一時輸出旺盛に際し、新業者の一部が契約期限を運延せしめたるも、一方粗製品を積出せし者ありし事とは、延て全般の廢價を毀損し、輸出亦曩日の面影無きに至つた所稱、大正九年春襲來せる世界的經濟界の大恐慌は、一般商工業界に頌挫を來たし、我メリヤス業も亦其渦中に投じ、單に歐米に向つたのみならず、東洋、南洋、其他の各市場にして従來我國の得意市場たりし地方も亦俄に不振に陥るに至つたのである。

三、歐洲戰亂の影響

名古屋市に於ける莫大小業に對して、過般の歐洲大戰が如何なる影響を齎らせるかを述ぶるに當り、何分にも五ヶ年に渉る長期の動亂にして、且其範圍も頗る擴大複雑なるものあるを以て各方面に亘る研究調査は容易の業にあらざると一方限られたる紙數の能くする處にあらざるとにより概觀の趨勢を敘述するに止むる事とする。

日露戰爭前後は、其生産額は漸く四十萬圓内外に過ぎなかつたが爾來逐年増進して大正三年即ち大戰の勃發せる當年には八十五萬二千三百七十九圓を生産するに及び大正四年には百萬圓臺を突破して百四十四萬七千八百八十圓に上り、本邦新業界に於て優勢なる地歩を確保し、大阪及び東京に亞ぎ全國都市中第三位を占め遙に神戸、横濱に於ける新業を凌駕するに及んだ。

即ち本市に於ける莫大小製造額は當時に於て大阪に比すれば僅かに一割内外、東京に比すれば八割乃至八割五六分に過ぎざると、神戸に比すれば三倍内外、横濱に比すれば三倍五六割乃至十倍内外の多きに達するに至つた。即ち大正三年に於ては原料たる綿糸は未曾有の大暴落を見たが爲め、需給の關係上製造額にも影響を及ぼしたるは、是れ製造數量及び價額の減少に對する主因である。

然るに大正四年に入りて前記の如き増加を示せるは當業者に於て露國軍需品の下請負を爲したるが爲め、自然製造數量の増大となつた次第で、此の軍需品の下請負は大正五年にも及んだのであるが、此關係と共に戦亂が益々擴大せられ來つた爲め、各交戦國の生産能率の減退によつて愈々本市の生産額が増加して、一躍百六十萬三千九百二十七圓と云ふ額に上つたのである、此年は原料綿糸高の爲め幾分製造高の上には於ける支障となつた事は争はれぬ事象である。

大正六年に入りては戦亂の好影響益々顯著なるものあるに至り、其生産額は前年より一百萬圓臺の増加にて二百六十四萬五千八百七十七圓を示すに及んだ、大正七年に入りては更に好調一方にして生産額は三百十六萬一千四百八十四圓を唱ふるに至り、戦亂の熱帯終想たる大正八年に於ては戦亂の好影響の極點に達し、斯界未曾有の記録を示し生産額は前年の二倍強なる六百五十三萬七千六百六十五圓と云ふ實に驚くべき計數に上つたのである。

大正九年に入りては戦亂終想と共に春陽に於て俄然世界的經濟上一大不況が來興したる爲め總の事業界は青天の霹靂、釣瓶落しの慘狀を呈したもので、莫大小界も亦此圈內を脱する事能はず、生産額は大減少を來し、斯界最盛時たる大正八年の半額に陥り、實に三百七十四萬八千六百十二圓に激減したのである。

次に販賣上より觀する時は本市莫大小製品の取引方法としては、從來主として市内各問屋より更に東京、大阪商人の手を經由して各地方に販賣せられたるが、開戦後は各地よりの需要額に増加の傾向を示し、本市業者の製造能力を以てしては到底之に應ずる事能はざるに至つた。

輸出品としては、從來より極め少種の支那向製品が、大阪商人の手を経て同方面に輸出せられ、開戦後に至るも別段戦亂の影響を蒙むるに至らず、依然輸出を繼續した、又開戦後の新販路たる印度、南洋諸島方面に對しても、本市製品は何れも東京大阪商人の手を經由しつゝあるが、叙上の事實に依りて之を觀する時は、本市莫大小製品の内地販賣は、主として東京及大阪の兩市を主とし、海外輸出に於ては主として、大阪商人の手に依り間接取引を行ひ、未だ海外へ直接取引を試みるに至らざるが是れ本業發達の途にある本市としては、止むを得ざるものと云ふべき乎。

又仕向地の狀況に就て見るに從來本市製品は主として、中等品若くは其以下の内地向の製品にして、之に比較して上等品たる東京製品と伯仲の間にある大阪製品と共に寒國たる東北及び關東地方に販路を有し、價格の低廉と品質の堅牢とに因り、他地方製品を超越して聲價を保ちつゝ來たので、戦亂開始以前なる大正二年に於ては、東京に移入せられたる大阪及本市製品三十九萬四千餘打、此價格九十二萬九千餘圓の本市製品は其一分餘を占めて居つたが、開戦後は逐次其數量を増加し來り、品質優良の故を以て、内地向としては益々好評を博し、從來の輸出地に於ける需要額に増加するに至つたのは、一は品質の向上に基因せるも、又以て該戦亂に因る阪神業者が主として、海外輸出に主力を傾倒せる結果内地向製品の供給不足に依るを認めなければならぬ。

歐洲戦亂開始後に於て本市業者が大阪商人の手に依り露國向軍需品として、防寒用綿製の服着類其他の當業を受け、之が製造に従事したるが、奈何せん製造能力不足の爲め、需要の全部を充す能はず、唯二、三業者が主として、之を供給したるのみにして、空しく利益を東京及び大阪商人の手に委せる状態である、此他印度、南洋方面に新販路が開拓せられたるも、皆直接の取引にあらざりて、他地方商人を經由する間接取引なる事既記の如くなるを以て、積極的に該戦亂の好影響を利用する能はざりし恨がある。

莫大小は素より實用品なるが故に、其性質上需要者に於ても他の奢侈品の如く、差して大なる嗜好の變化を生せず、内國にありては從來主として堅牢廉價なる厚手製品を要求せるに反し、外國に殊に支那及び露國方面にあつては主として防寒用厚手製品、印度、南洋方面は主として薄手製品を要求しつゝあるを以て、嗜好の狀況も自ら之に因りて岐るゝ次第である、即ち支那は從來より其要求極めて煩瑣にして、専ら

立標附、衣兜三箇附の肌着を嗜好すれども、之に反し露國は具堅牢にして形狀大なれば足り、加ふるに軍需品なるが故に専ら實用を主とし、其目的に適應したるものを要求し、絹絲裁縫の如き却て彼の方面には歓迎せられざる模様であつた。

次に仕向地に於ける競争品との關係を概観するに本市に於ける莫大小の製造には各種の便宜がある、從つて他地方に比較して製品の價格低廉なるが爲め、自然と要盛にして、本市製品は大阪地方の製品と共に東京に移出せられ、更に東北地方より北海道方面を販路とせしものなるが、其間に在りて本市製品の賣行極めて良好であつた、而して防塞用綿莫大小としては、近來本市獨占の狀態なれば比較的他地方製品との競争は見られなかつた。

支那向に在りては亦内地向の如く相當の弊價を保ち、品質に於て僅に他地方製品との競争に堪へ得るも奈何せん本市に對して唯一の競争地たる大阪に於ては、工場制工業組織に依る専門工場と最近専ら莫大小原料の供給の目的を以て紡績會社を設立し、盛に原絲の製産を行ひ、且つ巧に地の利を應用して畿内、四國、中國、等に於ける製品をも吸收し、之を支那、印度及南洋諸島に輸出するが故に、其數量に於ては到底匹敵し得べくもなかつた。

次に輸出關係に就て見るに戰亂勃發と共に本邦運業界に異數の激變を來たし、外國海運業者にして本邦に對して營業を爲しつゝありし者も、之を中止するに至つたので、船腹不足に因る運賃の昂騰は日と共に甚大となり、一般輸業者に對し一大打撃を興するに至つたと雖、由來本市當業者は前述の如く主として内國向を取扱ひ、輸出向に在りては總て東京、大阪等の商人の手を経て取引行はるゝものなるが故に、本市

商人としては運賃の昂騰も、直接には殆ど何等の影響をも蒙るに至らず、然れども之が爲めに米國方面よりの莫大小機械及び製械用針等の輸入困難となりたる結果内國製品を使用するの端を開いたが、販路に於ては直接大なる影響を蒙るに至らなかつた。

右の狀況で直接の影響は僅少であつたが唯之に因つて本市製造業者が戰亂の好機會を利用して充分に其脚足を伸ばし、以て支那、印度及び南洋方面に對する海外輸出を試むる上に於て、之を抑制し、從つて製品の數量に影響を及ぼすに至りたるは否定すべからざる事實である、今本市製品の大正三年より大正八年迄に於ける輸移出の額と全生産額に對する歩合を示せば左の如くである。

年次	輸移出額	全生産額に對する歩合
大正三年	九二,三五四	一割八厘強
大正四年	一一九,七一四	一割七分四厘強
大正五年	一六七,五三七	一割六分強
大正六年	六〇,三二〇	二割二分三厘弱
大正七年	七四,三〇四	二割三分五厘強
大正八年	一一九,八六七	一割九分強
大正九年	一九五,〇四七	五分二厘強
大正十年	五九,三〇七	九厘六毛弱
大正十一年	三九五,二九九	八分八厘弱
大正十二年	三四,二二六	七厘三毛弱

四、關東震災の影響

大正十二年九月一日曠古未曾有の關東大震災が、我莫大小界に如何なる影響を及ぼせるかを精査する事は頗る複雑煩瑣にして、悉知すること困難なるにより、茲には概観を述べらるに止むる事とする。

先づ東京に於ては、同地の莫大小製造業の中心たる本所、深川方面が、殆ど全滅の姿に陥り、同屋筋の根據地たる日本橋區がこれ亦全壊したる以上製造も不可能となり、在庫品も焼失し、販賣機關も消滅した状態である。

次に横濱は東京に比し、其被害も一層甚しく、全市殆ど全滅同様にて、同市に於ける莫大小製造並に販賣機關共悉く破壊の憂目に逢つたのである、斯の如く關東に於ける莫大小の二大製造地が破壊せられた以上我莫大小製造販賣の上に非常なる番狂はせを來した事は疑ない事實である。

殊に漸く冬物需要期に入らんとする時に當りて、已に準備せられたる製品は失はれ、今後當分製造不可能とすれば、供給に不足を生ずるは當然でも東京品は概して内地需要に應ずるもので、其製産額も各地の製産額を參照し、年々其製出も略限定されて居る形にある、其東京市の製品が突然の消失にて差當り失れ丈の缺陷を生ずる譯である。

横濱は従來専ら絹莫大小の製造地として殆ど本邦唯一の工業地なりしに、一時其工場が全滅に歸したので本邦の絹莫大小輸出は先づ杜絶の状態に陥つた次第である、被害工場の機械の如き火災に罹れるものは全然廢物に歸する事は勿論で崩壊に依る機械も幾多の修理を施すにあらざれば使用は困難である。

且つ震災に依る各種財産の消失は、工業資金の缺乏を來し、再起して製造に着手する迄には相當多數の日子を要する次第で東京、横濱に於ける莫大小業の復興は全く容易の事業ではないのである、然かも之を輸出關係より觀れば、東京は大正九年の頓挫以來、今や殆ど内地向専門にして輸出には餘り影響なきも横濱は假令近時不振なりと雖、本邦絹莫大小輸出の本場として名聲を維持し來りしもの、爰に一時中絶の運命に陥りしは實に残念至極と云はねばならぬ。

震災による紡績界の被害は其後の調査に依れば、想像よりも輕微にして、其被害の最も甚だしかりしは富士紡績株式會社にして、六〇以上の細物は此際一時不足を來せるも本物を主とせる一般紡績界にありては總體の被害三十萬錠(三分か四分位)に過ぎざるべく、是も三、四月後には漸次回復せられ供給不足より來る相場の騰貴は恐るゝに足らなかつたのである。

次に工賃に就て見るに、震災に依て東京に於ける内地向製品は殆ど全部を消失し、東京市内は勿論、従來同市より供給し居たる東北、北海道方面の需要も亦大阪より供給せざるべからざる状態となり、大阪の莫大小界は時に活況を呈し自然工賃等も暴騰するなどの懸念ありしも、大阪内地向は、同年初頭より一般經濟不況のため、地方に對する夏物の賣掛決済了らざる向多く冬物の取引も遅れ勝にて製品相場も採算以下に在りて、多く賣控へ手持品多かりしが、前記不況の需要激増に、在庫品の捌けたるは當業者の爲め幸なるも、爾後の製造に對しては前途の成行を考慮し警戒しつゝ、あれば製造界は先づ平穩にして、工賃昇降問題も惹起しなかつた様な次第である。

原絲に於て不足の憂なく、工賃亦變動なしとすれば、我輸出莫大小界には何等の悪影響なく、其消長は唯

海外市場の状況に依るのみであるが、然かも茲に最も當業者を苦しめたものは金融の梗塞である、震災に依る金融界の打撃は意外に甚大なるものあり、爲に日本銀行は救済的に各種の融通便法を設けたるも、并は單に銀行業者を救護するに止まり、其便宜は一般商工業者に直接均霑するに至らず、然も其銀行業者は近來頻りに警戒を加へて、容易に融通の途を開かざるがため、中には當業者中資金の缺乏にて、意の如く註文に應ずる能はざるものもあつた。

震災が莫大小界に齎らせた一般的情勢は前述の如くであるが然らば本市の莫大小界に對して、如何なる程度に反映する處があるかと云ふに、震災直前に於ける全國莫大小の生産順位を見るに對して、如何なる程度に占國の半額を占め、東京は第二位に居り、名古屋は實に第三位を占有して居る次第であるが、其第二位の東京の莫大小界が全滅し輸出莫大小の本場たる横濱が潰壞に歸したので需給的自然の趨勢からして、之が缺乏の補填は勢ひ大阪、名古屋、其他の生産地たる和歌山、奈良、兵庫の諸地方より仰がねばならぬ次第となつたので、名古屋の莫大小界も大阪のそれに連れて一時活況を呈するに至つたのである。

即ち大正二年の震災直前たる八月の名古屋莫大小の生産額は、二十三萬六千七百六十一圓なりしに、震災の當月たる九月の生産額は一躍前月の約二倍の二百七十八萬四千九百七十九圓に上つたのは實に驚異に値するものがある、是は云ふ迄もなく關東震災の爲め全國第二位にある東京の全滅に加ふるに横濱の潰壞に依り俄然として名古屋莫大小の需要を促したる結果に基く次第である。就中各種製品中、特に裏毛シャツが二百七十一萬六千六百九十九圓の多額を占め前月の同種が七萬六千八百七十九圓なるに比し實に二百六十二萬九千三百二十圓を激増して居る事は最も注目し得べきものがある。

然るに十月に入りては、震災地に於ける莫大小の需給關係も幾分飽和状況に馴致せられたるが爲め、生産額も九月より一次激減を來し四十二萬四千四百三十七圓を示して居るが、然し乍ら普通の月に於ける生産状態に比すれば、尙ほ相當の増加額なるを見れば、矢張り震災の爲め需要と見るを得るのである。次に十一月に至りては更に前月より一萬圓臺の増加にて略は同様の四十三萬五千三百八十八圓に上つて居るが、十二月に入らば更に十萬圓臺を越じ三十二萬八千六百八十八圓に下つたのは、漸次震災の莫大小界に及ぼせる影響が稀薄になつた事を物語つて居る次第である。

斯く觀じ來る時は當面の震災影響としては先づ十二月を以て一段落と見做すべきで、十三年一月に入りては、寧ろ反動的現象として、生産額の激減を示し十七萬二千五百二圓に降下して居るのである、次いで二月に至りては更に下押となり十三萬四千九百八十八圓に減退したのである。

大正十二年八月

今試みに震災前月の八月より十二月迄の名古屋莫大小の生産品別額を示せば次の如くである。

種別	数量	價額
天竺	五三三〇打	二六、七五〇
高毛	九九〇九	七六、八一七
手毛	一〇六九五	一七、一一二
靴	七九四	一五、八二二
計	一六七〇	一〇〇、〇〇〇
毛	三、五七五	二六、七七一

内地向は一般の不況且つ暑氣甚しき爲め商談進行せず、相變らず沈靜状態にして、輸出向も幾分値段下押高談運々たる状況である。

同 九月

種別	数量	額
天然毛	三、七〇〇	一一三、〇〇〇
毛	二一五、五五五	二七、一六一、一九
手	一三、四九五	一、六九一、〇
靴	七、九〇〇	一、九七五、〇
計	二四〇、六二〇	一、八七四、九七九

内地向製品は上旬に於て關東方面震災に付金融不圓滑不安裡に經過したるも中旬後各地より多數の注文あり、何れも現金取引にして滞貨の大部分は消化せられ、剩へ綿糸高に氣配も強硬の順路を辿り月末に於ては上旬に比し約二割方相場上昇し輸出向は前月と大差ない。

同 十月

種別	数量	額
天然毛	三、三三〇	一一一、七五〇
毛	二二〇、〇〇〇	二八、六六五、〇
手	一一、三三八	二四、四七六、
靴	八、七八七	二六、三六一、
計	二四二、四一五	六四、二〇〇、〇

内地向は前月ストック一掃の爲め、一般に製造に忙殺せられしも、當月は概して小口取引に止まり、一寸見送商況にして、相場幾分下押氣配に越月した、輸出向は商談運々として、進捗せず、眼先樂觀を許さなかつた。

同 十一月

種別	数量	額
天然毛	六、七七〇	四六、六九〇
毛	一九五、八八	二五、四六、四
手	九、八四一	二一、六五〇
靴	九、九六〇	二二、九〇四
計	一、七七〇	八八、五〇〇
下袋	四七九、二九	四三、五三、八

内地向は地方方向相當取引はるゝも概して、小口取引にして、大量の移出少く相場は綿絲の昂騰せるにも拘はらず伸張力なく幾分弱含みにして、生産者は不引合の商情である、輸出向は弗々商談ありしも些少の點に於て成立せず、而かも多くは先物にして大量の高談なく断続裡に越月した。

同 十二月

なるも、名古屋が一躍第二位に進んだ次第である事は殆んど確的に想像するに難くないので、即ち大正十二年の生産額の如きは一躍八百六萬二千六百六十八圓に上つたのにも其間の消息を窺知する事が出来るのである。

次に莫大小が國民生活の必需品として如何に重大視されれるかは、近來斯業の發展の促進的物製を招來せるにも、分明なる事象に屬するが、其生産額に於て其進展率が遙に他の工産品を凌駕せるに照らすも此間の消息を物語つて餘りある次第である、今試みに大正元年より十一年迄の全國莫大小の製造戸數、價額を示せば次の如くである。

年次	製造戸數	價額
大正元年	1,090	11,474,598
同二年	1,333	14,843,739
同三年	1,491	17,732,900
同四年	1,699	21,541,337
同五年	2,181	28,321,820
同六年	2,140	21,209,945
同七年	2,331	28,599,945
同八年	2,053	24,289,973
同九年	1,537	15,321,919
同十年	2,099	24,497,996
同十一年	2,975	55,221,950

即ち大正元年に於て莫大小製造戸數が一千戸臺なりしものが大正十一年には、約三倍に垂んとする二千九百七十五戸に達し、又生産額は大正元年には一千四百七十四千圓臺なりしものが、大正十一年に至りて五倍の五千五百十二萬二千餘圓臺に進展したと云ふ如きは、殆ど他の製造工業に於て稀有なる現象で、大驚異に値するものあると共に、此趨勢に依つて見るも莫大小が如何に國民生活に適合し來れるかは窺知し得るのである。

莫大小が近年昇天の勢を以て國民の需要を増大し津々沓々に至る迄其供給を見るに及べば、實に驚くべきものがある、即ち之を計數的に見るも日本の莫大小の生産額を假りに六千萬圓内外とする時は、日本の人口六千萬人に對する時は、即ち一人當り一圓の生産額に該當する事となる狀況である。

次に莫大小の内外の需要關係を見るに、大正十一年の總生産額五千五百十二萬二千七百五十四圓中、諸外國に輸出せられたる總計は一千七百六十六萬六千九百五十三圓であるを以て差引三千七百四十五萬五千九百九十七圓が即ち内地消費の總計數と看做し得るのである、而して全生産額に對する割合を見るに、輸出額は全生産額の三割二分強に當り内地消費は總生産額の六割八分弱に該當せる次第である。

今大正十一年輸出額一百萬圓以上の主要輸出地を示せば次の如くである。

輸出地	輸出額	輸出地	輸出額
英領印度	3,849,379	英吉利	2,283,518
比律賓	2,180,265	暹羅	1,376,826
阿弗利加	2,174,237	支那	1,167,971

之に繼ぐ處は蘭領印度、香港、關東州、海峽殖民地、南亞米利加等の順位にして、何れも十萬圓臺以上に及んで居る。

次に本市の莫大小の状況を見るに、是又全國的形勢に準じて、近年著しき長足の進展を示し、其計數を見れば何人も其發展率の異常なるには一驚を喫する次第である、即ち大正三年には僅々八十五萬二千二百圓の生産額たりしものが、十ヶ年の歳月を経たる大正十二年には四百六十一萬二千八百三十一圓と云ふ驚くべき昂騰を示して居るに見るも其間の消息を窺知し得るのである。

今其製品販路の狀況を概観するに、内地向の趨勢は關東震災前迄の分布概況は、關東、東北五分、近畿三分、關西二分の割合と見るを妥當なりとすべきであるが、關東方面は一たび東京に赴いて其中の幾部分は、更に東京より東北、關東地方へ撤布される事になつて居る、併し中には東京を経由せずして直接東北、若しくは、北海道方面へ取引する者もある、而して關東震災後は東京商人の信用が全く地に落ちたる結果、取引關係に於て一變した版があり、頗る警戒を爲すに至つた事は事實である。

大生産業者は直接東京に出張所を設けて、東京の商人と取引を爲し其信用狀況を調査して決して從來の如く六十日決済の手續等にて長期の延取引を行はず、殆ど現金取引に等しい方法を以て行はれるに至つた事は曠目に値するものがあるが、是は取も直さず震災の結果東京商人が無産状態となつた事に職由する次第である、而して從前の如き取引状態に復活する迄には相當の年月を要する事は勿論である。

一方名古屋市より近畿、並に關西方面への取引は何等震災の影響なきを以て矢張從前通三十日若くは六十日の決済による手形取引が行はれて居る次第である、次に震災の爲め當時迄のストックは、全く一掃せられたので、大正十三年に入りては春陽來不況を見越して、各製造家は示し合したる如く、夫々生産の平控へを爲して居つた處景氣が見直して來たるが爲め注文交付が續々來るので、刻下は各生産家は全能力を發揮して製造に従事して居るも、全然品薄の爲め需要を満たすに間に合はぬと云ふ好況で、兎に角大正十四年は從來のストック一掃と生産平控への爲めに、活氣を呈して來た事は實際である。

併ながら、現下綿絲相場が上押の狀態であるから、此相場を支持して行けば、莫大小も有望であるが、之に反して今後綿絲相場が低落するに於ては、勢莫大小の價格に悪影響を及ぼすべきは免かれ難いと云ふのが一般の豫想である。

次に輸出上に於ける販路の大體を觀するに、支那は大正五年頃より七年頃には北支那方面に相當の輸出があり有望視せられてゐたが其後排日騒の爲め取引が閉塞せられた、上海方面にも一時多少輸出せられたが當時は上海にも製造業が興り可なり相當な製品が出来るので漸次思はしくない傾向を呈して來た、尙奉天では靴下製造が始まり、格別安價なる特強によりて生産して居るが稍々用ひべき製品が出来る關係上本市品は價格の點に於て競争は出来得ない状態ではあるが、技術未だ幼稚なるを免かれぬ、瑞西が鈎織立機ねばならぬと云ふ不便が伴ふので實際に於ては運用出来ない處から現今は使用するものもなくなつた次第である。

奉天督軍張作霖の方針で支那の留學生を日本の高等工業學校に入學せしめて居るから、此等機械科を専修の學生は、總て卒業の腕には歸國して工業就中莫大小事業の勃興に努力する事となれば、今後は相當見込

あるならんと觀せられて居る。

斯の如き状態である處へ最近の支那動亂の情勢するあり、而も今回の戰亂は殆ど支那全土に渉る關係上莫大小の支那輸出は益許一寸停頓と云ふ形勢ではあるが、本市莫大小界は連年支那貿易が不振続きであつた關係から、今俄に支那動亂の爲め強烈なる影響はないものと見る事が出来るのである。

英國は從來より最も本市莫大小の顧客であるが就中上品品が歡迎されて居つたのである、處が獨逸の生産工業復活と共に獨逸品が英國に侵入し日本品は、此と競争する事は頗る困難なるものがある、夫は獨逸が日本に比し生産の安價なるに拠て、船腹の關係が因を爲して居る、即ち距離に於て獨逸が頗る地の利を占めて居るのであるが、之に對して日本は出來得る限り船賃の低下を計らねばならぬ次第で此路に關して日本郵船會社へ交渉をして居るが、未だ解決の運に至らぬ、一方此と共に極力生産費の低廉を計り以て獨逸品に對抗せねばならぬと云ふ立脚地にある状況である。

此問題につき英國倫敦スタン會社のラットクリツツ氏より本邦莫大小業者に宛てた書信の一節に「倫敦世界も平穩に復し獨逸の競争例の如く激烈にして、價格に比し品質優良の爲め、一般に獨逸品を調製して居る、此路より見て日本品は餘程の安價にあらざれば競争場裡の猛者たる事能はざるべし」常に高價なる製造家にとふ許ある英國莫大小製造業者すら、今日に於ては日本の値段よりも安價にて注文に應じ居る如末にて、日本が對歐輸出の勝者たるを得ざりし理由も、亦此に存する云々と云ふに見ても、其間の消息を速書したものと云ふべきで、繼て是れ日本の莫大小輸出業者に對する頂門の一針と稱すべきである。

南洋方面、蘭領印度方面にも相當本市莫大小の販路を有して居るが、殊に四日市の伊藤メリヤスの製品の如きは可なり賣込んで居るを以て此が關係上本市製品も陰に此の爲めに有利なる立場にある。先づ概括的に見ると本市製品の販路の状況は前述の如くであるが、輸出取引販路は相當區域を擴大して居るにも拘はらず、其内容は實質的に未だ振はぬ次第にて、心ある業者は之が發展策に關して大に研究熱慮を重ねて居る次第である。

二、組 合

イ、愛知縣莫大小同業組合

本市に於ては早くも明治三十六年齋村鎌吉、服部御太郎、山田惣太郎、鈴木清七、荒川義三郎等相會し組合設立を協議したるも、時期尚早の意見を有するもの多く成立するに至らず、越えて明治三十九年戦後後、斯業の發展を濫機として佐藤格三郎名古屋メリヤス商工同業會の設立を謀り成立を見た、此が斯業に關する私設組合の嚆矢である。

其後明治四十一年に一度之を解散し、明治四十二年更に私設組合を組織したるも永續せず、次で名古屋莫大小改良同志會を組織し、明治四十五年五月には名古屋莫大小信用購買販賣組合の設立を見るに至つた。其後歐洲戰亂の勃發は、我國の商工業に未曾有の活況を呈し、各種物産の輸出頗る旺盛を極めたるにより大正六年政府に重要物産同業組合法を制定し、爾來同法により現在の組合を組織するに至つた。

今設立以來組合員の異動及最近に於ける組合員の一般狀況を表示すれば次の如くである。

生産の態様	会社	個人	人計
主として職人生産なすもの 主として見込生産なすもの 兩者を兼ねるもの 計	一八	一九	一九
	一八	一八〇	一九八
	一九九		二一七

ロ、名古屋莫大小信用購買販賣組合

一、本組合設立の動機を左の三點に分解して説明しやう

一、粗製濫造を防止するの必要

莫大小界が日を遂て發展しつつあるも、其傾向が價格の低廉を競ひ、其結果粗製濫造の弊は防止するに由なく、折角日露戦争に際し、防家用として世間の好評を得たる名古屋メリヤスの眞價を失墜せんとしつゝある状態なるに拘らず、同業者は専ら自己の利害の外他を顧みず、一方輸出方面に於て見ても、歐洲戦争の好況時に於て粗製濫造其極に達し、甚しきに至つては、鉦が構附なりしと言ふが如き所謂島國根性を遺憾なく發揮し、業者の間には生存競争の惡弊漸次甚だしくなるの傾向があつた、茲に於て融通機關を設けて同業者に製品蓄積の餘裕を與へ、且共同販賣の目的にて販路の擴張に盡すしたならば斯界に貢獻する處勢ながらざるは敢て識者を以て初めて首肯すべき程の事ではない。

二、風紀改善の必要

莫大小は新進を事業にして、而も日露戦後以來の好影響を受けて一時は有利なる事業の一に數へられ他の失業者は本事業の將來を嘲目して續々轉業し、其結果急激なる發展を見るに至つたが、其當時は實際に於て本事業は他に比して收益多きにより、同業者間には奢侈放逸の風に浸潤して儲けた金は遊興の費に充つるを以て誇とする弊あり、此風次第に徒弟間に感染し美衣美食尙飽足らすとごなし到る所風紀上矯正すべき幾多の缺陷が生じたから、之が改善は焦眉の急務たるに至つたのである。

三、經濟上より觀たる必要

社會の風潮は日に月に輕薄に流れて、道徳は地を拂ひ而して經濟界に於ける進歩の趨勢は、貧富の懸隔をして益甚しからしめ、國家及社會の發達上最も必要なる中小産業者を漸次壓迫し、日々困憊の地位に陥らしめんとする傾向愈々顯著なるものがあつた。

抑も本市莫大小業者の大多數は中小産業者にして、極めて少數の同業者を除きては、自力を以て活動し能はずと言ふが如き状態に在り、従て彼等は常に資金豊富なる少數同業者の爲に、動もすれば抑壓せられ、其利益の大部分も少數者の掌裡に期し、拱手傍觀を許さざるの形勢を生じたるにより、經濟自治の機關として組合の設立は此弊害を豫防する最も確實な方法である。

前述の如き動機に基き、幾多の経緯の後明治四十五年五月二日設立の許可を得、爾來本市メリヤス界の爲に貢獻し其功績大に見るべきものがある、特に斯界に於て最も必要を成じつゝある、メリヤス金融機關としての機能を相當に發揮しつゝある一事にて、斯業特種機關の設置を促進する意味に於て大に注目し敬する次第である。

今該組合の組合員數を表示せば次の如くである。

年次	組合員數	年次	組合員數
大正元年	七十七	七年	一三二
全二年	八八	八年	一三八
全三年	一〇〇	九年	一六三
全四年	一一九	十年	一八六
全五年	一三六	十一年	二三五
全六年	一五六	十二年	二六二

三、工場數

本市に於ける莫大小製造工場の状態に就ては、大正六年始て愛知縣莫大小同業組合の組織を見たる次第にて其以前の統計を詳細に悉知するは困難なるものあり、且遠き過去に於ては莫大小業も未だ初步の時代にして、従て所謂整然たる工場組織のものは、殆ど稀なる次第で、其多くは家内工業的のものであつた、其結果製造戸數として統計に現はれた數の中には、小工業者が大部分を占めて居るは、云々迄もない次第である。

今明治三十九年より大正十二年に至る過去十八ヶ年に亘る製造戸數を表示せば次の如くである。

年次	戸數	年次	戸數
明治三十九年	七九 ^四	四年	一四五 ^四
全四十年	九五	五年	一五三
全四十二年	八一	六年	一六七
全四十二年	七四	七年	一七三
全四十四年	七七	八年	一八二
全四十四年	六二	九年	一九八
大正元年	八七	十年	二四七
全二年	一〇七	十一年	二七二
全三年	一三八	十二年	二七八

右の表中最近大正十二年に於ける製造戸數中株式、合資、合名、組織に係るものは約二十に過ぎないが、就中株式、合名に依るものが多くを占めて居る、其他は組織の大小こそあれ、總て個人經營に屬するものである。

四、職工

莫大小の職工につきまして之を左に表した方が簡單にして明白であると信するより、明治三十九年以降の統計を左に表した。

イ、職工數

年次	男		女		計
	男	女	男	女	
明治三十九年	一三六	八六	二二二	一三六	三五八
四十年	一五二	一一七	二六九	一五二	四二一
四十一年	一五四	一二三	二七七	一五四	四三一
四十二年	一五三	一三五	三〇八	一五三	四六一
四十三年	一八〇	一四〇	三二〇	一八〇	五〇〇
四十四年	二〇三	一四〇	三四三	二〇三	五四六
大正元年	二九三	二四〇	五三三	二九三	八二六
二年	五五五	四〇〇	九五五	五五五	一五一〇
三年	六五八	三三〇	九八八	六五八	一六四六
四年	七二六	三二七	一〇五三	七二六	一七七九
五年	七八八	四〇九	一二九七	七八八	一八八五
六年	八五七	五〇九	一三六六	八五七	一九二三
七年	八六五	六一七	一四八二	八六五	一九四七
八年	九六八	五九一	一五五九	九六八	二〇二七
九年	九六五	六七六	一六四一	九六五	二〇三〇
十年	一、三三四	九八八	一、三三二	一、三三四	二、六六六
十一年	一、三三四	七六〇	一、〇七四	一、三三四	二、四〇八
十二年	一、〇五二	七六〇	一、八一二	一、〇五二	二、一〇四

ロ、賃金

本市に於ける莫大小製造に従事せる職工の賃金に關しては、其使用する工場により其製造種類により種々雑多にして、容易に統一的計數を窺知する能はざると、且古に遡りて、之が概況を見んと欲するも杜撰なる統計にて到底之を審にするを得ざるを以て、大正六年愛知縣莫大小同業組合の設立以後に於ける状態を調査して、其平均を算出すれば左表の如くである。

業別	大正六年		七年		八年		九年		十年		十一年		十二年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
肌表	一、〇〇	七〇	一、一〇	八〇	一、二〇	九〇	一、三〇	一〇〇	一、四〇	一〇〇	一、五〇	一、六〇	一、七〇	一、八〇
手袋	一、〇〇	六〇	一、〇〇	七〇	一、〇〇	八〇	一、〇〇	九〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	九〇
下	六〇	六〇	九〇	六〇	一、〇〇	六〇	一、一〇	七〇	一、二〇	七〇	一、三〇	七〇	一、四〇	八〇

右表の示すが如く、肌表、手袋、靴下の三種により其製造賃銀も自ら高下ありて、肌衣製造職工が、男女共第一位を占め、手袋製造此に次ぎ、靴下製造が最下位にある次第である、此は肌衣職工が最も熟練を要し且其一人に對する製造能率が最多きに職出するのである。

右表の賃金は、平均賃金なるを以て肌表、手袋、靴下の製造に於て男女共其平均率を突破する事數割にも上る賃金を取得する者あると一方、此平均率より低下せる賃金を得る不熟練職工も存するは勿論である、即ち手袋、靴下、職工に於ても其熟練なるものは、肌衣職工の或者を超過するに至る者も存する實狀である。

莫大小製造に於ける職工の養成は斯非にどりて實に重要な問題たる事は、他の工業に比し遙に優るものがある。云ふ迄もなく莫大小製造の發達は比較的晩近の事象に屬し、總の機械並に作業の技術は歐米より移植せられたるものにして、其機械も随分複雑を極め居る關係上、之が運轉作業の体得も相當の努力を要する次第なるも拘て、莫大小機械は實に日進月歩の發展とも稱すべく次から次へと嶄新なる新機械が製造せられ、續々本邦へ輸入せらるゝがため一の機械に通達せる職工、技術者も新規の機械に對しては恰も素人の如き狀況なるにより、又それに對しては、白紙より學ばざるべからずと云ふ實相である。

其結果として、一の機械の操縦に熟達せしむるには職工は、素より工場主も尠なからざる犠牲を拂はなければならぬ、其當然の歸結として他業の職工に於けるが如く甲より乙へと轉々し行くこと云ふが如き現象は比較的尠ないのである。

斯くの如く職工の養成は頗る重大なると同時に又た困難の問題であるから、工場主も夫々苦心して居るも其養成の方法に至つては、各工場規を一にして居る譯ではない、其一例を示せば或大工場に於ける狀況を見るに、所謂中年者は出來得る限り使用せざる方針を採り十五、六才の尋常小學、或は高等小學卒業生を採用し、之を徒弟として總の生活を保証し工場に合宿せしめて業務の練習を爲さしめ一ヶ月五圓内外を支給して居るが、其技術が熟練すると共に其支給額も亦増進せしむる事にして居る、即ち仕事に熟練するに従ひ徒弟中にも腕によりては月四五十圓位の収入を有する者もある。

年輪二十才迄を徒弟として修養せしめ或る勤続義務を負はしめ、二十一才に至りて始て正式の職工と稱

するに至るのである、職工となれば、既に一人前の手腕技術を有する譯にて其収入も能率によりて素より一定せぬが中には熟練職工は八十圓以上の月收ある者もある、而して女子は合宿制度によらず、總て通勤とし、主として繰繰り等の仕事に従事せしめて居る、次に全般に徒弟の間は其の月收の半額程度を強制的に貯金せしめて他日の用に備へしめて居るのである。

右は主として獨立に従事する職工に就て述べたのであるが、其他職工の中には染色、漂白、起毛等に従事して居る者があるが、此等は獨立職工工程機械に關する技術的知識を要せざるの故である、唯起毛に關しては矢張相當の機械的訓練知識を要すは、論を俟たざる處である、其他の職工に於ても夫れ専門の手腕技能の必要あるは贅言を要せざる處である。

茲に一言すべきは編立に従事する機械職工に於ては、甲の機械に熟練通達するも、一朝他の機械の操縦に従事する場合は全く素人の如き故ある事は前述の如くである結果、肌衣編立より靴下の編立に移ると云ふ事は殆ど不可能と云ふ現象であるが所謂融通の利かざる事は夥しいものがある、此は體て職工の莫大小機械に對する根本的普通の知識が缺如として居る事に職出するものであるが、將來莫大小業が進展するに連れた時代の要求、流行の變遷に伴ふて種々なる品種を一工場に於て、製造せなければならぬ場合が起り得るものも看なければならぬが、斯くあれば、一層職工の機械に對する根本的融通性を帯びた教育が必要となる次第で、今後業者は大に此方針の許に自覺して職工養成に一段の努力を要すべきである。

五、機械臺數

本市莫大小製造業に於ける諸機械臺數狀況に就ては若き過去に廻りては、其概るべき統計なき爲め之を窺知するは、困難に處するを以て愛知縣莫大小同業組合の設立せられたる大正六年以後に於けるものを調査すれば大約左表の如くである。

別 種	大正六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
編立機械	二四五	三〇二	三六五	三九〇	四三〇	五七〇	八〇〇
手袋編機械	二二〇	二五〇	二五五	三二六	四〇二	四七〇	一、〇〇〇
起毛機械	一一二	一四	三一五	三三〇	三九八	四七〇	七〇〇
ミシン機械	三九八	三九八	一六	一八	一八	二〇	二〇
合 計	九九五	一、二六二	一、四三四	一、五六六	一、六八八	二、一八二	四、〇〇〇

右表に就て見るに逐年非常なる増加を示し、大正六年に九百十五臺なりしものが僅か七年後の大正十二年には、四倍強の四千二十臺に激増したるに見るも如何に莫大小が昇天の勢を以て進展し來れるかを事實に於て物語つて居る。

次に各種別について之を觀る時はミシン機械の増加率が最著しく大正六年に三百八臺なりしものが大正十二年には、約五倍増加の千五百臺を示し、次に靴下編機械が大正六年に二百十臺のものが大正十二年には之亦約五倍増加の千臺に至り之に次には編立機械が大正六年には二百四十五臺のものが大正十二年には十三割弱増加の八百臺に、而して手袋編機械は大正六年に二百二十臺のものが大正十二年には三十二割強増加の七百臺に増進して居る、増加率の最も低少なるは起毛機械であるが、其でも尙大正六年の十二臺に

比し大正十二年には約六割強増加の二十臺に至つて居る次第である。
右は愛知縣莫大小同業組合に屬する分のみの調査なるも近年莫大小の發展に連れて家内工業の勃興は著しきものあるに依り、組合に屬せざる小工業者の有する機械も相當の數に上るべきは蓋し想像に難からざる處である。

六、製造工程の概要と原價計算

(一) 綿 糸

綿糸一捆は四十五にして一玉は通常一貫二百目なるを以て一捆の立は四十八圓である、而して現今使用するは、普通百番手迄である、番手の標準は糸の一周を五十四時即ち一ヤール二分の一とし、これに八十を乗じたるもの即ち百二十ヤール(ヘビロ)とし一ポンドにて八百四十ヤールあるものを一番手とする故に二番手に、これに二を乗じたる千六百八十ヤールとするべく以上百番手に至るまでこれに準ずるのは英米の計算法にして、我國の紡績業者も之に倣ふて居る。

現今の紡績糸は即ち撚り強く従て甘き捻を望むメリヤス原糸としては不便尠からざるも、メリヤス専用原糸の普及せざる今日に於ては、その儘使用する外なき狀況である、爾て海外のメリヤス業はメリヤス専用の甘捻糸を用ゆるのみならず、附屬の自家工場にて専門の糸を紡き使用する原糸も上等なる爲め編立てこれに整理を施す時は自然の光澤を具へ柔軟にして肌觸り爽快である。

今や本邦同業者も附屬紡績工場を設置し専用原糸を紡かんとする傾向あるは斯界のため祝福すべき事であ

る、尚表に使用する糸は普通の紡糸を使用するも大なる不便なき模様なるも、裏に使用する太糸は起毛等の關係上専用原糸を紡ぐを得策とする。

海外の同業者中廢物利用策としてメリヤスの裁屑、起毛工場の落綿及び紡績の落綿或は屑糸に普通の原綿を混入して太糸を造り、既に安値のメリヤス品を市場に提供しつゝあるものがある、其耐久力に於ては同日の論に非らざるも一見他の製品と區別し難く、我國に於ても十數年前之が經營を企圖したるも當時糸價は現今の如く高値にあらず、採算上利益少しの理由の下に中止したるも、紡績業者の勢力日々増大し糸價に對する政策は彼等の意の儘なるのみならず、糸價の高き現今に於ては對抗上有望の經營と見做されて居る。

(二) 肌着製造

肌着製造は (イ)糸繰 (ロ)編立 (ハ)起毛 (ニ)水洗晒白染色 (ホ)ロール (ヘ)裁斷小斷 (ト)地織 袷廻り同衾、卸穴がり卸穴、ゴム付 (チ)アイロン或はブレッツシュ (リ)疊付レッテル (ス)箱入或は紙包の工程を経次第にて、斯かる多數の工程につき一々解説を試みるは頗る煩瑣なるのみならず又其必要なきを以て之の概要を述べんに、最初の工程たる糸繰は總の基礎となるを以て最丁寧ならざるべからざるものにて、若し此工程を等閑に附するに於ては編立中故障續出して到底生産能率を發揚する能はざるを以て最注意を要する次第である。

「起毛は不注意のため表糸まで掻き生地を荒すことがある、晒白、染色に於て使用材料は最注意して決して粗惡品を使用せざる事肝要にして、晒白不良の製品が翌年持越の場合早く赤味を帯ぶが如きは屢目撃する

所である。

海外に於けるメリヤス製造にはロールの工程なく、ロールは單に巾を定め且つ幅目を整理するのみにして艶付の目的にあらず、強度にロールを施す時は生地を損傷し糸の力を弱くするものである。

「裁斷」大裁ちは一四尺乃至四尺半に生地を切りシャツの身二分を取る此で脇縫のシャツを造り、其半分二尺乃至一尺三寸に裁ち、一人分となし肩縫のシャツ即ち脇縫はすのシャツを造る、袖を取するには裁合せに取るを法す、ズボン下も亦然り裁方巧ならざれば裁屑を多く出すにより大なる注意と技巧を要す、縫合に付ては米國陸軍省は歐洲戰時に際し如何に裁縫すべきかを研究し、本縫は二重環縫に及ばず洋服さへも本縫を廢し二重環を採用したる次第にて二重環縫は最丈夫である。

(三) 靴下製造

靴下製造は (イ)糸繰 (ロ)ゴム刺 (ハ)編立 (ニ)先かざり (ホ)イン付 (ヘ)染色 (ト)乾燥 (チ)ブレッツシュ (リ)スタンプ (ス)疊付レッテル (ル)箱入或は紙包の工程を経るものにして、編立はゴムを目刺せし處へ糸を空けて往々機を動かす、長靴下はゴムを刺さず最初より器械にて編立するものである先かざりの時注意を怠れば往々綻ぶことがある。

イン付は長靴下の上部を折返し縫ふ事にて手にてかざるのゴオバラツタマシンにて縫付するものもある、最近組立器械自ら自動装置にて縫はずに織る進歩をした、染色は織て後にするを良とす、我國にては往々染糸を用ゆるものもあるも概して後染色である、又我國にては乾燥して後ブレッツシュするも、海外の工場に於ては温氣の儘乾燥器に入れて仕上するが故に形のくずれること無し。

(四) 手袋製造

手袋製造は (イ)編立 (ロ)起毛染色、晒白、(ニ)縫合 (ホ)飾り (ヘ)アイロン (ト)熨付
 レットル (チ)箱入の工程を経るものである、織手袋は横器械を用ひて製し、縫手袋は肌着の生地と同じ
 大なる反物を裁ちて縫合するものにて指と指との間にまちを入れて製品とす。

(五) 製造原價

メリヤス製造原價を算するに、我國製造家は概して原糸及び各工程に要せし工賃及荷造容器(内地物には
 茶櫃の空きを用ひ輸出は別製)等の實費を合して製造原價とし、これに割増して販賣元價とするものも
 ある、勿論社組織の製造所は毎期の決算にて利益分割を算し得るも、本邦の如き個人經營の多き所に
 は期卸に剩したる處を利益とするを常とする故に例へば一圓のシャツを九十錢に値切らるゝも原價に割
 引したるにより損とならぬ程度の考を以て商談に應じつゝある、海外の見積り原價は直接原價即ち活きた
 る原價として、我國のは間接原價に當り直接原價計算法の安全なるに如かず、然れども此算出法は各工場
 の絶對秘密に屬し到底其正確なる數字を窺知し得ざるは止むを得ざる次第である。

今本市産毛糸メリヤス肌衣一打の原價の概算は綿糸一貫目の相場に加工賃三圓乃至三圓三十錢を加算し
 て算出するのが最簡單な方法である、而して試に原價の割合を示せば次の如くである。

原	五割八分
編	七分
立	四分二厘
工	
賃	
價	

染	六分四厘
起	一分九厘
毛	二分五厘
ロ	
ール	
貨	一割二分五厘
裁	
縫	
品	六分一厘
附	三分九厘
屬	
箱	

(備考) 裁斷、仕上、ボタン付は裁縫賃中に含まる。

七、原料の需給

如何なる製造工業の經營に於ても原料需給關係の圓滑と、其價格の低廉とは頗る重要な事項である。

近來生産の要素として勞銀に關する研究が重要視せらるゝの傾向あると、一面原料の自給自足に對しても
 幾多の研究が行はれて居る、即ち生産の要素に關して各其觀念を明し、其經濟的機能を究明し、其正確
 なる價値の決定に至るを以て研究の目的とせられて居る様である、即ち勞銀に關しては、勞働の觀念を明
 にし生産に最重要なる關係を有するは勞働生産力であることを究めて、其價値が勞銀であると斷定するが
 如く、原料に關しても亦其が製品に至る間の價値轉化、即ち原料としての價値が漏失なく製品原價に包藏
 せらるゝやを研究し、又一面に於ては、此が需給關係を調査して可及的自給自足の方法によつて原料價格
 の外的影響を緩和して、製品價格の安定を期し、且つ原料價格を低廉にして以て生産費の減少を計る等、
 所謂科學的經營法を採用するに至りたるは近時工業界に於ける極めて顯著なる事象である。

メリヤスの主要原料たる綿糸は、内地の紡績會社が織物用として紡績したる燃強きものである、近時我國に於ける綿糸紡績業の發展に伴ひ、其勢力も亦頗る鞏固にして此が場は、供給者たる彼等大紡績業者の自由なる支配に放置して、其對策の施すべきものなき状態にして、此が爲めメリヤス業が常に壓迫を蒙り經營上頗る困難なる立場に在るは、綿糸相場と莫大小の關係の項に於て詳述したる所である。尙此外毛糸に關しても内地に於ては毛糸紡績會社の採算上の理由により綿糸毛糸の紡績額少額に過ぎざる爲め、勢ひ海外より輸入せざるべからざる結果其市價は、常に海外事情の影響を蒙り生産上の不安は綿糸の相場と五十歩百歩の觀がある。

斯の如くメリヤス製造業者が、原料相場の變動に支配せられて經營上幾多の困難に逢著しつゝあるのみならず、織物用綿糸は前述せし如く燃強く莫大小用に通せず、幾分硬質たるを免れず、毛莫大小の原糸たる毛糸も紡績の進歩に伴ひ、肌衣用、靴下用等各専門的に紡績せられたるものを用ゆるに至りたる結果、メリヤス原糸の自給自足は焦眉の急務と言ひ得る次第で、現に内外船舶株式會社の東京工場に於ては、自家用原糸を紡績して自給自足し、以て製品の統一は勿論經營上の安定を期せんとする計畫がある、其外諸村商會に於ても専用原糸紡績に關する計畫が完成して居る様であるから、原料供給上幾多困難なる問題は漸次解決せらるゝものと觀測し得る次第である。

今原糸取得に關する状況を見るに、主として原料同屋の手を經るもののみで、現在に於ては、相當の設備を有する會社すら、原料の自給は勿論生産者より直接購入するものも無き有様にして、斯界の爲めに遺憾とする所である。

之を要するに、原料の自給をなすには、設備其他原綿輸入に付て相當の資金を要するを以て、資本豊富な者か又は小資本業者の共同出資によるに非ずんば、到底實現し能はざる爲め止むを得ざる次第なるも、一方生産者よりの直接購入するもの無きが如きは、最も遺憾とする處にして、此方は特別に多額の資金を要するもの非ず、假令取引數量に於て紡績業者が條件を附する等の事は有るけれども、此點は業者が共同購入の方法によりて連帶責任を負ふ覺悟にあらば、左迄困難なる問題に非ずと思はれるが、現在此種の取引を爲すもの皆無なる理由は、要するに業者が原料供給關係を如何等間に附した觀がある。

次にメリヤスに用ゆる綿糸の番手は、天竺シャツボンには三十番手を主とし、又時としては二十番手、四十番手を、毛莫シャツボンには二十番手、八番手を主とし、十六番手、十番手を、手袋靴下には八番手十番手を主とし、十六番手二十番手を用ふるも、近時紡績技術の進歩に伴ひ百二十番手の如き極細物を使用し、細メリヤスに比して殆ど遜色なきのみならず、其命數に於ては、遙に優秀なる成績を舉ぐるに至つた。

現今我國に於ては二百番手の綿糸紡績に成功して居るが、獨逸には三百番手のものが出來て居ると云ふ事である、因にメリヤス界の趨勢は漸次細物が歓迎せらるゝ傾向を帯びて居る。

其他毛糸の番手はセーター等の太物には五番八番十番等が用ひられるが、最普通に用ひられて居るのは、二十番手と三十番手である。

原料の取引について云へば綿糸は現金取引（着荷後七日以内）が一般に行はれて居るが、毛糸は前述せし如く海外より輸入せられる關係上先物取引を行ひ、契約高に相當する信用狀を發行し又は契約高の二割方

至三割の保証金を提供し、殘額は荷物と引替に支拂ふのが普通の様である、尚原料の共同購買は名古屋莫大小信用購買販賣組合に於て實行して相當の成績を擧げて居るが、此種の方法は頗る適切なるものと認められて居る。

要するに、現在の原料需給關係には幾多改善を要する點のあるは阪々の言を費す迄もないが、此が方策は將來の部に於て論述する所である。

八、綿絲相場と莫大小の關係

由來本邦莫大小製品は絲價に左右せらるゝ、事甚しく、爲に需給關係による價格の變動以外に、更に二重の危険を負担せざるべからざるものありて、殊に輸出莫大小に於て一層然りとす。勿論莫大小製品に對する絲は其原料の殆ど全部を占むるものなるを以て、其高下が製品價格に影響するは當然なるも、而も其餘義なき理由は他に存するのである。

一般的に云ふならば、本邦莫大小の現狀は比較的規模小にして、殆ど全量、普通紡績會社の紡出せる絲を必要に應じて購入し、以て機械にかけ編立るものなるが故に時の相場に依り絲價高ければ、製品も亦從つて高からざるを得ない、而も其購入時に於て絲價低廉に、製品として賣出す場合、絲價比較的高位にあれば何の仔細なきも若し反對に、製造後に於て、絲價暴落するが如き事あらば、製品の價格はそれに伴ふて安値となる。

殊に輸出莫大小は注文に依つて始て製造に着手さるものなるが故に、注文當時の絲價に依り採算し、契約

を締結し、其契約品を引渡す迄には多少の時日を要するを以て、其間萬一絲價低落するが如きことあらんか往々契約の破棄、値引等を申込まれ我當業者は之が爲に苦しめらるゝ、事多年である。

斯の如き不利なる取引方法を改善せんが爲めには、或は契約を改訂せんとし、或は團體の方に依て、商權の確保を期せんとするも、根本が利益問題たる商取引に於ては、其實現は容易の事であらず、原料たる絲價の動搖のために、取引の進展を阻害せらるゝ、事紛ならず、殊に近時の如く、其高下甚しき際にありては注文する方に於ても、其前途を懸念し、製造業者も亦採算に迷ひ、兩者の相互に暗中物を探るの不安に襲はれつゝ、幸ふじて契約を締結するの状態である、左れば註文者に於ても眞に當座差迫りたる需要を充すに止まり、一時の大口の取引を避け、自然輸出の不振を來す所以である。

尤も今日本邦の絲價は殆ど世界的となりて、必ずしも本邦のみが獨り高異常ならざらずと雖、絲價に依つて莫大小製品相場が左右せらるゝこと、斯く適切ななるは、蓋し世界中其比を見る處である、這是歐米諸國の莫大小製造組織と本邦のそれとは根本的相違のあるが爲にして、是は大に研究を要すべき處である。現に當業者に在りても此關係の研究改善に就て一步を進むべきである。

爾て本市の狀況に於ても勿論其原料綿絲の相場の影響甚大なるものがある、就中本市は關東、東北向即ち寒國向の各物類の製造が頗る多數を占めて居る關係上一層此綿絲相場の高低に對して敏感なると共に幾多の苦衷が伴ふ次第であること云ふ理由は、元來此各物類の取引は先づ八月頃より開始せられ九月、十月が最も販賣を極める時期でそれより翌年の二月迄にて取引が一段落となる次第で、三月より七月迄は夏物の期節にて各物の商談は殆ど行はれないので、此間秋先の商談に入る迄の間は、唯來るべき各物の取引に備ふ

るが爲の推定的生産に努むる次第にて勿論内地向製品の多くは註文によりて製造に取掛るものにあらずして自家の商況見越に依る打算より來る概算的生产を爲すものにして其間所謂型態の氣分の加味せらるゝは寧ろ當然なる現象と云ふべきである。

即ち此間に生産されたる製品は、初秋商談に入るを期節整理の上箱詰となして、倉庫に貯蔵し置く次第である、三月頃より八月迄商談休止時期の間に於て原料たる綿絲相場は、常に變動あるを以て見越生産によるストックを有し乍ら始終綿絲相場の高低に一喜一憂して居らなければならぬのが其實相である。

綿絲の動きの關係上其間に於て時價による綿絲を原料として生産せる製品價格が商談時期たる八、九月に入りて其時の關係上の高低如何により業者の損益は豫め計るべからざるものがある、即ち商談期節の際に於ける綿絲相場が生産當時の綿絲相場より高き際には製品價格は自ら上押となりて業者の利益となるべきも逆に商談時期の綿絲相場が生産當時の綿絲相場より下位にある時は製品の價格も其商談時期の綿絲相場を原價基礎として立相場せらるゝを以て勢ひ下落せざるを得ぬ處から、業者は折角閑散期に於て生産貯蔵せるものも賣出の際には、損失となる次第である。

斯の如き状況なるにより業者は、常に一般生産品の需給關係に考慮を拂ふと共に、一面此商機を忘却する事は出来ぬので、實骨に之を云へば、莫大小業者は、製造家として一面定期師の商家と云ふのが真相である。製造業は、此綿絲相場の變動に向つて如何にして備ふべきかに就ては常に甚大なる懸念を費して居る次第であるが、其の結果は、人によりては、冬物生産時期即ち三月頃より七月迄の間に於て、生産する際に當り、原料たる綿絲の定期先物を賣り所謂保險を附して綿絲相場の變動に伴ふ損失より脱せんとする方途を

講じて辛うじて此間の調節を計つて居る向もある状態である。

併ながら一面より看る時は斯の如きまじして冬物のみを製作し綿絲原價の如何に拘はらず三月頃より七月の候迄製造して、需要期に入る迄の閑ストックとして、倉庫貯蔵を爲し、所謂資金の死蔵をなすが如きはなかく、容易の業にあらず、需要期の製品が果して採算に引合ふや否と云ふが如き、危険率を負担して迄は事業を爲すには耐ふなからざる資金を要する次第にて、到底貧弱なる資本而も日歩の付きたる資金を以ては引合はざる仕事にて、實際に於ても、冬物のみを製作する業者は相當有力なる業者であることを看るも此間の消息を窺知し得るのである。

本市内に於ける莫大小業者の多くは、冬物のみと云ふが如き限定的製作を爲さず夏物も、冬物も問ふ處にあらず、時期に應じて製作し居ると云ふのが其實相である。

斯の如く綿絲相場と莫大小製造の關係は密接なる交渉を有し、就中綿絲は其相場が常に變動を來し、安定する事なく大それた最も敏感に、莫大小に響く次第にて、莫大小業は常に綿絲相場に對して殆ど神經的に注目を爲すに至り、此が周到なる注意を怠り、盲目的に動く者は敗れ、此機会を逸せざる者が勝者となること云ふも敢て過言にあらずと云ふ狀況である。

九、全國上半年期成績

最近に於ける本邦莫大小の趨勢を知る事は本市の莫大小製造業者の謂ふ處を知る上に於て、敢て待爾ならざるものありと信するを以て、大正十三年の上半年期の成績を茲に叙述する事とする。

大正十三年一月より六月に至る検査總數量は、二百八十萬九千六百八十一打にして、之を十二年の同期間の三百二十二萬四千八十六打に比すれば、正に一割三分の減少である。之を各月別に前年と比較すれば、次の如くである。

	十二年	十三年
一月	四〇八、一六〇	二九二、八三七
二月	五三三、五七五	四二一、五九七
三月	五九一、二五四	四四〇、九四二
四月	五四六、一七一	四六二、九八三
五月	五七六、〇五九	六〇三、二八二
六月	五六八、九六三	五九七、〇三八
合計	三、二二四、〇八四	二、八〇九、六六九

而して之を仕向地別に就て觀るに、本年は英領印度の六十萬六千五百二十五打を最高として、比律賓の五十九萬六千百五十五打、亞弗利加の五十二萬九千四百九十六打、蘭領印度の二十二萬四千二百打、支那の十六萬八千八百八十七打、南米諸國の十一萬六千八百三十九打、英國の十一萬三千六十七打等、十萬以上の主なるものにして、他は十萬打以下である。

今測て十二年の上半期を見るに、最高は英領印度にして、七十四萬五千三百七十四打、亞弗利加五十六萬二千十打、蘭領印度二十七萬八千三百四十一打、英國三十六萬三千三百九十一打等、本年に比し多額

のものにして、其他香港、海峽植民地、露領亞細亞、北米、南米諸國、臺灣、其他の諸國等、何れも多少共本年に比し好成績を示し、唯支那、關東州、比律賓、加奈陀等のみは本年の方が優勢なりしを見る、即ち之を表示すれば左の如くである。

	十二年	十三年
支那	九四、八三五	一六〇、八八七
關東州	六三、〇五六	七七、六七四
香港	一三三、八六二	九九、四一五
英領印度	七四五、三七四	六〇六、五二五
海峽植民地	九六、八一	八〇、二四七
比律賓	二七八、三四一	二二四、二〇〇
英領亞細亞	三六三、三九一	一一三、〇六七
露領亞細亞	一、四一六	、五三一
北米合衆國	五、一五六	、七七二
加奈陀	、八二七	三、二九四
南米諸國	一五九、四七九	一一六、八三九
亞弗利加	五六〇、二一〇	五二九、四九六
臺灣	一三四、六八二	五九、八七七

右表に就て見るに、生産價額の最多きは綿に於けるシャツ及ズボン下類にして、第二位は綿毛及毛に於けるシャツ、ズボン下にて、第三の綿の靴下、第四位は、綿の手袋、第五位は、綿毛及毛の靴下、第六位は、絹の靴下、第七位は、綿毛及毛の手袋と云ふ順位を示して居る次第である。

單價に就て見るに、此種共通の靴下に於て、絹製は、其筆頭に於て、綿毛及毛の製品は之に次ぎ綿に至つては、絹製の五分の一にしか該當せずと云ふ安價である、次にシャツ、ズボン下に於て綿製と、綿毛及毛製の比較は、綿製は、綿毛及毛製品の約四分の一弱に當るに過ぎない、而して兩者製の手袋に就ては、綿製綿毛及毛製の約四分の一の價格である。

要するに、全般を通じて綿製品價格の頗る安價なるは、之に依つても明かなる處で、名古屋製品は其大部分が綿莫大小製品なる次第にて、従つて價格が安價なる處から假に所謂名古屋製品は、安物であるとの非難を耳にする所以であるが、實際は綿莫大小の製造が量なる結果に基く脚か見當外れの批評と稱すべきである。

十一、生産額の消長

本市に於ける莫大小の生産額の消長を見るに、實に過去十餘年間に於て異常なる發展の迹を示し、他の工業品に比較し、一頭地を抜けるに徴するも、如何に近年莫大小の需要が、時代的必須となれるかを物語るものがある。

今遠き過去は暫く措き、明治四十四年より大正十二年に至る十三年間の状況を檢するに、圖表にも示せる

如く、明治四十四年には、五十六萬七千圓なりしものが、大正元年には八十一萬五千三百圓に上り、同二年には一躍百十萬八千二百圓となつた、然るに同三年の八十五萬二千三百七十九圓に減じたのは、歐洲戰亂勃發に伴ふ一般財界の不況による影響である、同四年に及んでは、漸く戰亂による好況が現はれ、輸出も漸次増加の傾向を辿り、國內も亦經濟的好調に向つた爲め、需要を増したる結果百十四萬七千八百八十圓に進み同五年に入りては約前年より五十萬圓増加の百六十三萬九千二百七十七圓となり、同六年には二百六十四萬五千八百七十七圓を示し、同七年に及んでは、愈々戰亂の好影響現はれ、本邦財界も益々潤澤となり従て國民の購買力増大するご一方、輸出に於ても、戰亂に伍する列強は國を擧げて、之に没頭し、敢て他を顧るの暇なきが爲め、諸工業品の如きは、却て本邦其他諸國より之を仰ぎ、且從來歐米諸國より供給を受けたる印度南洋諸方面を始め其他の植民地も勢い、本邦製品を迎ふるの傾向を來したる關係上、本市製品も亦此機運に促されて輸出も俄然増大するに至りたる等により、一躍三百十六萬一千四百八十四圓に上つた。

次に大正八年に入りては、其絶頂に達し前年の倍以上に及び六百五十三萬七千六百六十五圓と云ふ驚くべき計數を示したのである、然るに大正九年に至りては、戰後の不況一時に襲來したる爲め總の事業界は、見るも無慘なる光景を呈し、算を亂して倒れるの状況により、我莫大小界も亦之が影響を脱するに由なく前年の好調に比し約半額の三百七十四萬八千六百十二圓に墜落したのである、然るに大正十年に至りては一般財界の復活と共に一方莫大小は最早國民の必需品の擧を廢するに至つて居る關係上、自然的必要増加は

多少の故障を以てしても、抑制せらるべき性質のものにあらざる結果需要は又増加を示し忽ち前年の半減を復活して、六百二十八萬四千六百七十六圓の生産額を見るに及んだのである。

然るに大正十一年に至りては、十年の所謂中間景氣なるものが、根幹に基調せるものにあらざる處から、反動景氣合來せるが爲め、財界も沈靜に赴き莫大小も亦其影響を蒙りて約百七十萬圓減の四百五十一萬九千九百五十九圓に降下した次第である、次に大正十二年に入りても依然財界は引續き沈滞し一脈の暗雲低迷する一方對外貿易は逆調に次ぐに逆調となり、入超又入超の悲況に陥り爲替關係は益々不利となる等悲觀材料續出せる爲、輸出は頗る不振となつた、又一方戦亂後數年に及び列國も競ふて國力の充實に努力する結果は製造工業の發達殷盛を極め、機械力の應用の結果は勞銀の低下を來し、生産費の低廉となり、從て製品は格安となり舊來の販路に向つて積極的に努力し來れる狀況なるに反して、本邦品は依然として勞銀低下せず、原料に於ても高價なる關係上、此等外國品と競争するには頗る困難なるものあり、漸次受身の業態となり輸出貿易は難局に立てる等の事情に基き、本市莫大小の輸出の如きも減少を見るに至れる次第である。

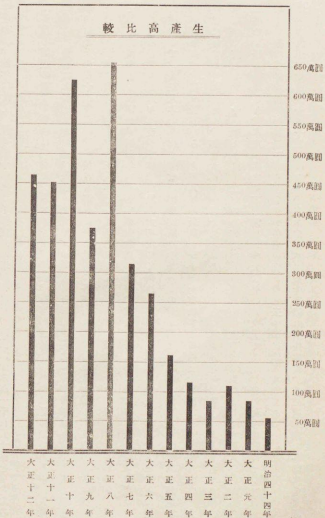
關東震災によりて、一時的景氣を醸成し、本市製品も相當の割を見たるも、此は「震災の影響」の項に於ても述べたる如く九、十の兩月には一寸異常の生産額を示したるが如きも實際立入て檢すれば、其中には從來よりのストックが相應に含まれ居るを以て、強ち震災後の一時的に捌けたる量が其影響と認むる事が出來ざる事情を有するを以て、十二年全般的に通覽する時は、矢張り本市莫大小界不況と云ふ次第にて、

其生産額は、前年に比し、僅々約十四萬二千圓内外の増加となり、四百六十六萬一千五百十圓を示したのである。

次に製品の種類を重ねるものは、シャツ及ズボン下、手袋、靴下の三種で、其他は雜種類であるが、生産額について見るに大體よりすれば、矢張シャツ及ズボン下は筆頭で手袋之に次ぎ靴下は下位である、明治四十四年より大正十二年迄の間に於ける消長の跡を見るに各種何れも、大正八年迄は、其額の多少に拘はらず、年々漸増の傾向を辿り、大正八年を以て最高に及んで居るが、其中唯シャツ及ズボン下のみが、大正三年には前年より減額し、同四年に入りて多少増加したが、尙は大正二年に及ばぬと云ふ現象を現はして居る、而して大正九年に至つては、財界の大不況にて何れも非常なる減額を來して居り、大正十年に於て又増加して、大正八年のそれと略は同程度迄所謂中間景氣の爲の恢復したが、併し八年の記録を超過する事が出來ぬが、獨り靴下のみは大正八年の最高レコードを突破する事約三十萬圓に上つて居るのは、大に注目に値するものがある、其後大正十一、十二年に及んでも遂に大正八年の最高レコードを打破る事は出來ぬが、概して大正十一年よりは十二年の方が増加して居るが、靴下は依然として大正八年の記録の上に出で、居るに見るも、本市製品の靴下の需要が盛大に赴いた次第である、斯の如き主因については、近年内外種物株式會社の如き靴下の専門製造が殷盛を極めたこと云ふ事に依る次第である。

次に明治四十四年より大正十二年に至る十三年間に於ける生産額の消長圖表、並に同年間の各種別生産額表を示せば次の如くである。

較比高產生



年次	生産高 (百万)	手袋	靴	下	其他	合計
明治四十四年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正元年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正二年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正三年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正四年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正五年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正六年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正七年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正八年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正九年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正十年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正十一年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
大正十二年	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000

十二 製品取引の状況

製品の販賣せらるゝ徑路は、製造業者から本市の間屋へ夫より地方間屋及小賣業者へ卸されるのが最も普通であるが、大規模の製造業者の中には主要の都市に直接販賣機關を設けて此をして一般地方の間屋及小賣業者と卸取引を爲さしめて居る、又専ら東西の大百貨商店の注文に應じて殆ど専局的に製造して居るものもあるが、是は製造業者から直接小賣業者へ販賣せられるもので、間屋の仲介を要せず從て其價格も他

に比して低廉なる次第なるも、此等の業者は大なる規模の下に大量生産に従事しつゝあるもの故統一したる製品を以て比較的大量の注文に應じ得るし又此が取引の決済の如きも頗る安全なるも、小規模の業者にては到底かゝる取引が行はれざる所である。

斯界にも仲介機關としてブローカーなるもの存在するも、其數極めて少く之が利用等は殆ど無い、又市場の設備もないが共同販賣機關としては名古屋信用購買販賣組合が此方面に於て逐年相當の成績を擧げて居るのは注目し値する事と信ずる。

特種の販賣機關として名古屋メリヤスタオル同業會なるものがある、此は大正七年の創立に係り當該販賣業者の有力者を以て組織し、現在二十四名の會員を有し毎月二回三日、十九日一定の場所に會合して見本取引を行ふものにして、一口の出資額は五十圓なるも現今に於ては多額のプレミアムを生ずるの盛況を呈して居る、通常會日の一週間前東西にある販賣業者即ち會員の得意先の主なるものに對し案内狀を發送するものにして、此等は十分なる信用調査をなしたる結果選擇したるもので、東京四十名、大阪三十名に限られて居る様である、好況時代に在つては、東西より參集する者約二十名に達し一回の取引高實に七十萬圓の多額に上り今や重要な販賣機關として聲望を高めて居る、其取引の要領を示せば次の如くである。

- 一、出品 一人につき二點
- 一、受渡場所 名古屋驛
- 一、代金 六十日手形(震災當時は現金)荷具賣主持、運賣買主持
- 一、歩金 一步五厘

一般取引の時期は市場の情況により必ずしも一定して居らぬが、生産時期によるもので、則ち夏物は三、四、五月、冬物は六、七、八、九月が普通になつて居る故に生産時期と實需期とが製品の卸取引が行はれる譯である、而して内地向は殆ど見込み生産が行はれて居るから時に生産過剩に陥る場合があるが、目下の狀態では止むを得ない。

市内の間屋への取引の場合は木箱を用ひないのが普通になつて居るし、其取引の數量も一時に多額に上る事などはなげれども、他地方の取引は内地物は十三打入又は十五打入の木箱を用ひ取引數量の如きも相當經つて始められざる様な傾向を帯んで居る、如何なる場合に於ても荷具は買主持、運賃は買主持で代金の決済は昨年震災當時は殆ど現金取引に限られ居つたが、現今は荷に復し六十日の手形で極めて順調に決済が付て行く様である。

輸出向は悉く注文によつて生産せられ、間接又は直接に輸出せられるが、價格の定め方は先方港渡しと當方港渡しとの二種がある、而して代金の決済は信用狀の發行を要求するのが通則にして、信用狀には全額支拂と半額支拂とがあるが、全額支拂が最安全なる方法である、場合によつては、注文金額の幾割かの現金を保證書として提供せしめ、殘額は荷物と引替に決済する方法もある。

爲替は注文主の希望により一覽後三十日、四十日、六十日、九十日拂等あるも、信用狀の發行せられて居る分は、爲替の期日の長いのは一向苦痛とせず即ち荷主は船荷證券、海上保荷證券及び爲替手形を指定銀行に提出して代金を受領出来るからである。製品輸出の順序は莫大小聯合會支部を含むにて製品検査を行ひ合格したるものは、主として神戸税關を経て輸出せられるのである。

製品検査は店舗又は工場に於て施行し、合格不合格を区分し、「スタンプ」印を局所に押捺し、其他工場に於て加工中に注意指導し徹底的に改良進歩を計り其成績は逐年良好である。
 試みに、大正十二年中の主要販路並に販賣の状況を示せば次の如くである。

主要販路	数量	價格	襪		手袋		靴	
			數量	價格	數量	價格	數量	價格
内地								
關東地方	1,200,000	100	1,200,000	100	1,200,000	100	1,200,000	100
北陸地方	800,000	100	800,000	100	800,000	100	800,000	100
計	2,000,000	100	2,000,000	100	2,000,000	100	2,000,000	100
外國								
英領印度	1,000,000	100	1,000,000	100	1,000,000	100	1,000,000	100
支那	500,000	100	500,000	100	500,000	100	500,000	100
計	1,500,000	100	1,500,000	100	1,500,000	100	1,500,000	100
合計	3,500,000	100	3,500,000	100	3,500,000	100	3,500,000	100

而して販賣數量並に價格の割合を示せば左の如くである。

主要販路	數量	價格	襪		手袋		靴	
			數量	價格	數量	價格	數量	價格
内地								
關東地方	1,200,000	100	1,200,000	100	1,200,000	100	1,200,000	100
北陸地方	800,000	100	800,000	100	800,000	100	800,000	100
計	2,000,000	100	2,000,000	100	2,000,000	100	2,000,000	100
外國								
英領印度	1,000,000	100	1,000,000	100	1,000,000	100	1,000,000	100
支那	500,000	100	500,000	100	500,000	100	500,000	100
計	1,500,000	100	1,500,000	100	1,500,000	100	1,500,000	100
合計	3,500,000	100	3,500,000	100	3,500,000	100	3,500,000	100

本表の示す如く關東地方へは、概して上等物が移出せられて居る、手袋及種下が英領印度へ輸出せられな
 いのは、本市製の手袋は概して安物なる爲め需要に適せず、靴下は本市に於て最も優良なるものが製造せ
 られて居るが、目下内地の需要丈にさへ應じ切れない様な状態にあるのと、一方經營上の方針に基き現在
 では輸出せられて居ないが、此種の製造品が輸出する事となれば、全世界に於て米國製品に對抗して十分
 の勝利があるから、將來此方面の活躍は人に注目し値すると思惟せられて居る。
 次に組合獨立の當初より最近に至る間の商況の推移を述べれば次の如くである。

大正六年度 (組合獨立)

一時暴落したる綿糸相場は、大正六年十月より漸次順調を示したるを以て之が製品たるメリヤスも一般に
 取引盛に行はれ、殊に軍用手袋の如き十一月より一月に亘つて常に供給不足に促され相場の上昇又は生産
 數量價格の増大を呈し、一月、二月、三月の頃と雖相當數量の取引行はれ良好なる商況を呈した。

大正七年度

歐洲戰亂勃發以來一般に好況なると共に、業界益活躍を呈し、殊に原糸相場の昇騰は一層の刺激となり、
 好況多忙を以て越年したるも、常に職工の不足を呈し八月第三師團管下の勅員令、十月頃流行性感冒によ
 り益々其不足を招來し、需要供給の不平衡となり爲に時機製品の拂底其極に達し、業界稀に見る活況を呈
 した、例年一、二月は閑散期なるも露西亞軍需品の注文により相當多忙を極め、概して各品とも品薄好況
 なりしも唯軍用手袋のみ賣行良好ならず越年した。

大正八年度

四月以來綿糸相場昇騰を持續し、製品相場も相當上昇商況強硬なりしも、六月に至り糸況更に騰貴し一般に警戒の念を生じたるも、取引旺盛且時期切迫と共に活況を呈し、愈十一月の需要期に至り綿糸相場稍々下押の商勢となり、爲に製品亦伸張力鈍く生産者は賣進に努力して越年し、一二月と依然として見送りの情況にして、三月に至り製品相場の手堅く爲めに弗々契約をなし製造を初む、之を要するに、本年度は糸況衰して漸落の商況なりしを以て、業者は相當の効果を収めたるもの、如し、輸出向は支那の非買同盟は引續き鎮靜せずして商談常に進捗せず、八月に至り一時緩和せしやの觀ありしも一時向にして前年度に比し輸出數量減少せり。

大正 九年 度

前年度の初に於て未曾有の世界の變動生じたる爲め、金融の梗塞波瀾恐慌を起し契約は嚴禁をなし、歐州戰爭中打撃きたる好況は忽ち曇花一朝の夢と化し、財界は暗黒界となり前途如何に安定するや計り難く、茲に製造を休止せしむるの必要を認めメリヤス同盟組合の決議を以て一齊に九月迄休止を爲し、以て生産の調節を圖りしが其當時に至り、季節の切迫に一方稍々安定の曙光を認めたると六ヶ月間の休止は甚大なの調節となり、商況意外に強硬にして例年冬物の取引皆無とも云ふべき、二月の候に於ても註文あるが如き結果を生じ、相當の收穫を得たるも、輸出向は戦後世界的經濟界の變動により爲替關係等我に不利なるを、銀地の下落等悲觀材料のみにして殆ど入註社絶の情況であつた。

大正 十年 度

前年度末の商況意外の好況により引續き活氣ありたるも、前々年度の恐慌により受けたる打撃と金融の關係上凡て堅實に傾き相場も時に一張一弛を免れず、要するに他の工業に比し順調の徑路を辿り相當の收穫を得たるも年度末に至り、兎角悲觀材料のみ多く相場の下押し軟弱裡に經過した。

大正 十一年 度

前年度末の不況に引續き商況兎角鈍狀活氣に乏しく、加之綿糸相場概して手堅く常に綿糸價と製品價と相伴はず、製造業者は操業に多大の困難を成じたるにより、應急策として生産の調節を計るの必要を生じたるを以て、六月一日より二ヶ月間生産半減を決議し之を勵行せしめたり、夏物は稀に見る旱天稻の爲め實需期に至り品薄の狀態を早した、一方輸出向は支那方面依然不振、其原因たるや、支那内地に勸殖業及メリヤス業の勃興と戦下手袋等比較的簡易なるものは、各地に開始せられ生産費の低廉なる爲め従つて市價安く、彼等多く之を需要し日本品を購入せざるに依るが、南洋方面は相當好況裡に越年した。

大正 十二年 度

年度始より夏物の需要夥しく供給不足を生じ相當成績を挙げたるも、原料綿糸相場手堅く冬物は一般に商談氣乗せず鈍狀を持續し、例年の取引時期に到來するも、商談運々として進捗せず、春來の滯貨愈々増加し業者は困窮状態に陥りたるも、九月關東地方未曾有の震災と實需期の迫りたるに依り、製品の需要一時に殺到し滯貨は一掃せられ、相場幾分上昇加之製造に忙殺せられたるも一時の好況にして、年度末に至りて活氣乏しく平靜裡に經過した。

輸出向は支那方面依然不振、印度方面は尚好況裡に越年した。

十三、内地需要の趨勢

七〇

明治維新メリヤス業が漸く我國に傳來したる當時に在りては、其需要は單に軍隊用靴下に限られ、其數量も頗る微々たるものなりしが、制度百般の革新行はれて官吏の制服を洋服に改められ、苟も職を官廳に奉ずるものは洋服を着用するに至り自然メリヤスの需要は軍隊以外に擴張せらるゝに至つた。

然れ共當時の洋服は比較的有福なる生活を營むを得たるを以て、彼等は粗雑にして不体裁なる本邦製品を單み、ジャパン物として使用せず、當時に在りては靴下が辛臭じて彼等の需要に投合し得たるも、其他の製品は到底其満足を得る事能はず、外國製品、所謂舶來物は店頭に販賣したのである。

次にメリヤスの大量需要者は學生である、師範學校、帝國大學學生の制服を洋裝に定めてより、其他の官公私中等學校は相前後して生徒の制服を規定したるより、自然メリヤスに對する需要も増加し更に他の一面に於て銀行、會社等に從事する所謂實業方面の人々も、歐米文化の輸入に伴ひ、其思想は勿論外形も亦此風潮に感染し、従來前掛、角帯の袴を脱ひしもの一變して背廣服にソフト帽の扮裝に新しき意氣を誇り之に伴ふメリヤスの需要も漸次多きを加ふるに至つた。

斯の如く需要の漸次増加するに従ひ、之が製造技術の進歩を促し、従來は其種類單に靴下に限られ居たるも、漸くシャツズボン下等を製出するに至り、本邦製品を使用するもの多きを加へたるも、需要家は軍隊以外には下級官吏又は學生等にして、従つて其需要區域は主なる都市に限られ、本邦メリヤスの存在は未だ一般に認めらるゝに至らなかつた。

メリヤスが洋服の着用に附隨して其需要を喚起せるは自然の數なるも、當時洋服着用者なるものは其數實に微々たるのみならず、其需要區域は或る限られたる範圍を脱する能はず、かゝる状態にては到底今日の如き盛況を見る事を得ざるも、メリヤスの性質たる肌に密着し、併も伸縮自在にして、身体關節の屈伸に何等の抵抗なく、且つ保溼上頗る有効なるを以て、廣潤にして開放的なる日本服の下に着用するに、休戚保溼の條件を悉く具備し居る爲め、和服の肌衣として使用するもの次第に多く、従てメリヤスは日本人一般の需要を喚起し、殊に冬期の如きは、日本服裝の必要なる一部を爲すに至り、其需要は俄然増加するに至つた。

尙愛にメリヤス需要家をして所謂節内労働者の群を特筆大書すべきである、メリヤスが前記の性質を具有する關係より、能く労働者の衣服に適し、家の内外を問はず彼等の腹掛の下には必ずメリヤスシャツあり、首綱のパンツは大方ズボン下に代つた、かの鐵道線路に鴨嘴を握ひ、或は建前に斧鉞を執る、此等の徒の殆ど九分通りはメリヤスの使用者として、其動作を輕快自由ならしめ然も其價格に於て彼等の財力に適應するものであつた。

以上主として都市に於けるメリヤス需要の趨勢に關し記述したるも、之が漸次地方に傳播するに至れるは彼の兵士等が滿期除隊となりて歸郷し、或は都市に遊學せる學生等が時々休暇を利用して歸省し、又は地方より都市に見物に出かけて歸郷せる人々が、直接間接に其地方の人々に對して、メリヤス製品の效用を普及するに及び、新規好の傾向と相待つて其需要は實に長足の勢を以て發展し、此間技術の進歩は製品の種類を増大し、メリヤスは愈日本國民上下を通じて服裝の主要部となるに至つた。

七一

帝國某軍艦が遠洋航海の途に上るに際し其製品を託して世界各市場に販賣を試みた、勿論當時は未だ我製品は歐米の製品に比すれば幼稚の域を脱せず、其成績は従つて揚らざりしと雖、兎に角我國に於てメリヤスの製出せらるゝことには十分の効果あるは疑なき所である。

斯の如く我メリヤス製品の輸出は、地理的並に從來の通商關係より他の貿易品と等しく先づ支那に向つて試みられたるが、其當時大阪川口、神戸居留地等の在留の支那商人が、盛に我當業者より購入せる天竺地シャツは、大部分新嘉坡地方に輸出せられ而して漸次印度全國、南洋、比律賓等に向つて、我製品は此等支那商人の手を經由して逸早く販路を擴張するに至つた。

當時我當業者は一般に海外事情に暗かりしが、漸次販路の明瞭となるに從ひ明治三十年前後には我メリヤス製品は東洋の各市場に盛に輸出せられ、明治三十六年には當業者印度に渡りて未だ試みられざりし直輸出を開始し、或は遠く英國と直輸出を試みるものを生ずる等、當業者は實に刮目すべきものがあつた、當時既に米國、フランス、ドイツは支那地方の市場を獨占し、其信用も亦強固であつた、而して印度南洋方面には獨乙の廉價品壓して容易に他國製品の窺ふを許さざりしが、一度本邦製品の輸出せらるゝや當業者の努力と製品の比較的精神にして廉價なる事とは、支那よりライオン製品を印度、南洋の市場より獨乙製品を驅逐して本邦製品の勢力を扶植するに至つた。

爾來我メリヤスは常に進展を續け時に仕向地の實地調査を試みて直取引を開始し、或は支店、出張所を開設して益々海外の事情に精通して強固なる直接取引の基礎を確立せんとし、支那、印度、南洋、比律賓の各市場に於て我製品は最早を動すべからざる根柢を築くに至つたのである。

而して歐洲戰爭の勃發するや、從來メリヤス製造國として最も有力なる獨乙英國、米國等に於て戰爭の爲めに普通工業は勢ひ閉鎖せらるゝに及び、メリヤス製品の如き輸出は勿論、自國の需要をも充たし難き状態となりしより、本邦に向つて世界の各方面より注文殺到し爲めに本邦産業は空前の活氣を示すに至つた。此等各方面に於て需要せらるゝ製品は、精選なる優良品にして且種類も頗る多岐に亘る等の關係上自然斯界の技術に多大の剝奪を與へ、製品の面目一新し躍如として世界の各市場に調歩するに至つた。

此間業者の中には契約期限の履行の確實ならざること一方粗製品の混入等商業道德上甚だ憂慮すべき事故の發生し、爲に我國メリヤス製品の聲譽を毀損するに至つた、其後平和克復と共に戰後常に免る能はざる反動的不景氣は世界を風靡し、大正九年春以來輸出額に激減した。

大正十年に入つては大正以來未曾有の慘狀を呈し、かゝる狀況にして水積せんか、業界の前途遂に憂慮に堪へざるものありしが、幸大正十一年の春以來本邦紡績業者の極短歇廢と共に糸價の安定を見、漸く安に採算を有利ならしむると相俟つて久しく沈滞せる各市場より引合も弗々到來し、就中戦後杜絶の状態ありし對英輸出も復活の氣運芽さし漸く不況のドンド底を經過して爰に多少共輸出挽回の曙光を認めらるゝに至つた。

然れ共大正十一年は尙不況の域を脱せざりしも、同年下半年より漸次各方面の活氣を呈し、大正十二年に入りて引續き甲谷院、孟買及英國、南米方面は勿論、埃及、南阿、麻尼刺方面にも相當の輸出を見、頗る活氣を呈し、下半年に入りて各市場により一進一退の歩調を辿り來りたるが、震災後は糸價の高騰は安値の輸出に相當の障害を與へ、註文値の出合はざるもの多く、商筋筋は警戒し一般商狀不活況となりしも

大体に於て十一年に比し四割の増加を見るに至つた。
 顧るに我メリヤス製品は安値として海外に相當の需要を迎へてゐるも、我國紡績業者の勢力日に月に其重きを加へ余價の高低は殆ど彼等の左右する處となりし爲め、一度余高の現出せんか直ちに輸出メリヤス界に甚大なる影響を及ぼすは、最明瞭なる現象なるに拘らず斯業者が幾多劇策する處あるも其效果の餘り見るべきもの無きは、我國輸出メリヤス界の一大痛恨事である。
 之を要するにメリヤス製品の海外輸出は、大正五年に最盛にして本邦輸出品中莫大小が第五位に當り斯業の誇とする處であつた。

我メリヤス製品貿易の發達の跡を尋ぬるに、これを三期に別つて適當とする、即ち明治三十四、五年前を支那への輸出時代とし、三十五年以後を印度への直輸出とし、大正五年以後を英國其他直輸出時代とす、尤も之十五年前は支那商人を経て印度へ輸出せられたるも其額拾壹萬圓に過ぎざりしが、一度直接印度市場に渡り取引開始せられたるより、印度全土に我メリヤス製品の聲價を認められたる結果、三十五年に至りて印度より大阪及び神戸の輸出商人へ數十萬圓の注文來り、翌年輸出額は一躍七十五萬圓となり、三十八年には百五十萬圓となり今日の隆盛を見たる譯にて、印度への直輸出は日本メリヤスが嚆矢にして順次其地方へも輸出するに至つた。

その以前印度へのメリヤス輸出は獨逸、埃夫利、西班牙を主としたるが、我製品の僅々三四年にして此等を驅逐して一躍首位を占むるに至つたのは注目し價する處である。

然るに印度貿易は年を逐ふて數量を増加したるも比較的價額を増さなかつたので、大正三年に至る數年間は印度貿易不引合にて新に販路を開拓せんとする聲漸く急なりしが、歐戰後は對英貿易の機會を興へ業界の窮狀を挽回した。
 斯の如く莫大小に對する需要は實に世界的にして、我莫大小製品が輸出品中如何に重きを加へたるかは極めて明瞭の事で、今試みに大正元年より大正十一年に至る間の本邦重要輸出品十五種類中メリヤス製品の地位を示せば次の如くである。

重要輸出品消長順位比較

年次	順位	品名
大正元年	1	糸織物
同二年	2	糸織物
同三年	3	糸織物
同四年	4	糸織物
同五年	5	糸織物
同六年	6	糸織物
同七年	7	糸織物
同八年	8	糸織物
同九年	9	糸織物
同十年	10	糸織物
同十一年	11	糸織物
大正元年	12	石
同二年	13	石
同三年	14	石
同四年	15	石
同五年	16	石
同六年	17	石
同七年	18	石
同八年	19	石
同九年	20	石
同十年	21	石
同十一年	22	石

莫大小の本邦輸出品中の位置斯くの如く、將來益々有望にして一ヶ年一億圓の輸出可能なりとの觀察が下されて居る、將來は暫く措き既に斯業輸出の情勢より推論するも、大正十年以前に於て一億圓の輸出は當然に實現して然るべかりしも如何にせん當時斯業界に於て大量生産に對する計畫及設備の小なりしと輸出に對する積極の方策を持つる人物に乏しかりしことにより、遂に此大關門に到達し能はざりしは斯業界のため千載の遺憾にして、一度眼を世界經濟に注かんが誰にも吾國が斯業の發達上恰好の状態に在るを知る所である。以上は主として綿メリヤス輸出に對する見解なるも、絹メリヤス等についても適當の製品あれば一ヶ年二三千萬圓の輸出は敢て難事に非ずと觀測せられて居る、現に英國スタン社のみの米國よりの輸入は年額實に一千万圓を越ゆると言ふに至つては、本邦メリヤス製品の前途誠に多忙と云ふべきである。

以上は全國的メリヤス輸出の趨勢なるが、本市製品も此大勢に順應し、日露戰爭後には支那及英領印度に盛に輸出せられ、幾多の費用を投じ研究を重ね直取引を行ひ、逐年其聲價を認めらるゝに至つたが、本市の製品が従來毛物を主とし概して格安品にて其得意先は殆んど北支方面に限られ居たが、近來支那のメリヤスの發展に伴ひ此方面の輸出は一頓坐を呈するに至りたるは此を得ざる處なるも、今後天竺の細物及毛メリヤスの生産に力を傾注すれば英領印度及濠洲方面への輸出は充分の可能性あるのみならず、品質の良好なるもの、生産に努力すれば英國への輸出も頗る有望なるを以て斯業者は、今後此方面への輸出品に對して十分の研究を要すると共に仕向地の狀況は勿論直輸出手續に關する智識を十分貯へて置く事が必要である。

今組合設立の大正六年より最近に至る間の本市輸出品の品種別生産高を示せば次の如くである。

天竺シヤツズボン

年	度	數	量	價	格	一打單價
大	正	六	年	四七〇七六	一四九五〇三	五三〇
同	同	七	年	四〇七三七	三二五八九六	八〇〇
同	同	八	年	五〇九五七	四三三〇七五	八五〇
同	同	九	年	三六二四七	三〇八二〇〇	八五〇
同	同	十	年	四七三二二	四七三二一九	七〇〇
同	同	十一	年	五八九四一	三八三二一七	六五〇
同	同	十二	年			

猿股、腹巻其他

年	度	數	量	價	格	一打單價
大	正	六	年	一、七五七	七四九九〇四	三二七
同	同	七	年	一、五七	一一一〇	三九〇
同	同	八	年	一、四七〇	一三六二八	九二六
同	同	九	年	五二六	六六二八	一二六〇
同	同	十	年	一、〇七	一一三九	五五〇
同	同	十一	年	一、四七	五八八	四〇〇
同	同	十二	年	一、四〇	五六〇	四〇〇

年	度	數	量	價	格	一打單價
大正	六年		一七〇〇斤		二八九〇〇	一七〇〇
同	七年		三二、四五四		五五〇〇四四五	一七五〇
同	八年		二七、八九三		六一三六四六	二〇〇〇
同	九年		七、八一八		二八九九七	一六五〇
同	十年		二、四三三		四一三六一	一七〇〇
同	十一年		二、五六二		三八四三〇	一五〇〇
同	十二年		九三三		二二二一九	一三〇〇

靴 下

年	度	數	量	價	格	一打單價
大正	六年		二、八八四		七四九、八四〇	二、六〇〇
同	七年		七、八一四		二、一九〇七	二、八〇〇
同	八年		七、四一六		二、九六六四	四、〇〇〇
同	九年		一、八六七		八〇二八	四、三〇〇
同	十年		九二〇		三、六八〇	四、〇〇〇
同	十一年		二七〇		八七八	三、三五〇
同	十二年		六二三		一、八六九	三、〇〇〇

手 袋

年	度	數	量	價	格	一打單價
大正	六年		五、七八九		一〇、九九九	一、九〇〇
同	七年		二、四五六		三七三、六八三	三、〇〇〇
同	八年		五、九一七		二〇七、〇九八	三、五〇〇
同	九年		三、四九七		三三、〇四三	二、三〇〇
同	十年		四、四三一		一一、九六四	二、七〇〇
同	十一年		一、九五七		四、六九七	二、四〇〇
同	十二年		二、六三四		五、二六八	二、四〇〇

資本主義の經濟組織の下に於ては、金融の圓滑と否とは直接事業經營の成否を決すといふも敢て過言でない、故に企業家は豫め金融上の方法を拵て、業を起すべきは勿論、常に此が對象に細心の注意を拂ひ、忽に附すべきでないが、金融の事たるや常に國內全般的の需給に對して頗る敏敏なるのみならず、經濟生活の進歩に伴ひ、世界に於ける文明國と稱すべき程度の國にありては、此が世界の影響も亦到底免れ難き所にして、一面一國に起りたる政治的事變が直に他國の經濟界に反響して以て其國の金融界に變動を生ぜしめるが如きは吾人の屢々體驗したる所である。

斯の如く金融の世界的色調が漸次濃厚の度を加へ、此が仲介機關たる銀行業、信託業の如き近來目醒しき發展を示すと共に、企業家はあらゆる策を講じて、金融上有利にして而も堅實なる地歩を獲得せんと、致々汲々たる状態にして、時に金融業者が誤りたる政策に基き放漫なる貸出を行ひたる爲めに、或は事業を不振に沈淪せしめしきに至つては、此が貸付を受けたる企業家をして再び起つ能はざるに至らしめたるのみならず、延ては一國の産業を沈寂に陥らしめたるが如きは明白なる事實である、しかし企業家は努めて事業を有利に經營して金融業者の信用を高め、以て金融上優越なる地位を獲得して益大なる利潤を占めんとするが如き、金融上の地位の優劣と企業の成否とは循環的因果關係に支配せられて居る。

以上金融の一般的性質に基き本市斯業の金融状態を概観するに、比較的大規模の經營者は銀行を利用し居るを以て、従つて金融の苦痛は少なきも、其他のものにありては自力を以ては經營し能はざる云ふが如き状

態にして、常に資金豊富の少數同業者の爲に動もすれば抑壓せらるゝが如き頗る不安なる境地に在り、當然占むべき利潤を彼等少數者の搾取に任せるが如き憂ふべき形勢を生じたるにより、此等小規模業者は徒らに拱手傍觀し得ず、明治四十五年五月二日名古屋莫大小信用購買販賣組合を設立し、經濟自治の機關たらしめ斯業の積弊を一掃して金融上の安定を期するに至つた、爾來年を逐ふて隆盛に赴き、其使命を果しつゝあるは業界の爲め喜ぶべき現象である。

莫大小製品は加工品にして需要家の嗜好の變遷に伴ひて甚大なる影響を蒙るのみならず、其原料たる綿糸は相場の変動頗る多く、從て直に製品の價格に反映する等の事情あるを以て、擔保としては餘り歓迎せられざるは止むを得ざる次第なるも、業者の信用と相俟つて商品擔保の金融は普通行はれて居るが、一面信用金融も相當に行はれて居る様である、即ち業者は製品の賣行惡しき時、全く工場を閉鎖して休業するが如きは容易に能はざるのみならず、從業者は概ね熟練工なる關係上一度彼等は解僱して其手裡より脱せしむる時は、容易に再び得難きが實情なるために工場主は、採算が假令不引合に陥るが如き場合に於ては、生産を續行して從業者の遣散を防遏せざるべからざる破目に陥り、從つて茲に滞賃を生じ金融の急迫に苦み止むなく金融業者の了解を求め、製品を擔保として一時の急を凌ぐもの、如く觀測せられて居るが、かゝる場合は倉庫に委託し倉荷證券によつて金融を行ふものである、倉庫保管料は例へば一打十二圓として一ヶ月三錢八厘、保険料は一ヶ月二錢四厘が普通の様である、而して製品時價の幾割の融通を受け得るかは所謂商機に屬し居るので探知し難きも、相當の了解の下に行はれて居る様で、其期間は三十日乃至六十日、日歩二錢五厘乃至二錢七厘見當の様である。

名古屋莫大小信用購買販賣組合の借入金は、産業組合中央金庫、勸業銀行、農工銀行、産業組合聯合會等から融通を受けて居る、而して償還の方法には年賦と定期との兩様あり、利率は年五分が標準になつて居る、今該組合の金融状態を知る爲に最近十ヶ年間の運轉資金及貸付金の計數を示せば左の如くである。

年	次	運轉資金	貸付金
自明治十四年五月二日	末	二,九一八,四六〇	三五〇〇〇
自同大正二年十二月一日	末	五,三二二,三〇九	二九二,〇〇〇
自同大正三年十二月三十一日	末	七,八五二,一九二	三六一,五三〇
自同大正四年十二月三十一日	末	八,五〇五,七八九	一三二,一八七
自同大正五年四月三十一日	末	一一,二〇〇,九七〇	六,六三六,五〇〇
自同大正六年四月三十一日	末	一五,七〇五,三二一	一五,一五〇,五〇〇
自同大正七年三月三十一日	末	二六,二〇八,二二二	二四,五五四,六五〇
自同大正八年三月三十一日	末	三七,七二六,八四九	四九,四〇〇,四一〇
自同大正九年三月三十一日	末	三七,〇一一,三四九	

十六、斯業の特長

一、生産の簡易と資金運轉

莫大小製造に於ては、一般織物製造に於けるが如く準備工程(繰經開付)等を要せない、繰を待又はボビンに繰返して直に、織立が出来た處から極めて簡単に従つて資金及び生産費を節約し且其結果として生産品が其他の織物に比して迅速に出来るを以て直に販賣して、資金化し得る關係上資金の回轉を速かならむと云ふ利便ある譯となる。

併ながら此は製品の需要供給上の經濟状態が頗る好況開場の場合を前提として、此點が織物のそれと同様な條件の下に置かれたる場合、生産品が迅速に製出せらるゝ、尤それ丈織物に比し資金の回轉を早くする事が出来ること云ふ事となるので、實際問題としては、強ち此理論通りには行かねる事が多い、例へば裏毛冬物類を専業とするものは、其年の二、三月頃より七月頃迄製造せる品物を、八、九月の候商談の期に入る迄の間、ストックとして貯蔵せざるを得ないこと云ふのが真相であるが、斯かる場合如く、日々迅速に相當なる製品が出来るも、之が資金化と云ふ段に至りては、五、六ヶ月間も資金運轉の停止状態と云ふ次第で、此點は當業者の最苦痛とする處にて、従て少資本業者のよくする處にあらず、又高利の利廻りに當る資本を擁しては、なか／＼困難と云ふ事情である。

斯の如く觀する時は理論上生産品が迅速に出来る事が雖も資金回轉を速かならしむるものと云ふ事は、實際的には之と矛盾接觸する場合があるので、決して、一槓には、論じ難い次第であるが、大體論よりすれば、製品が迅速なれば、それ丈資金化も亦速かと思ふべきであると思ふ。

二、機械價格と其能率

本市莫大小製造に使用しつゝある機械の種類も、種々あるが、其製造品種によりて、機械も亦夫々異なるは

難を來す事となるべく、其結果従前の如く何時迄も安閑たるを許さぬ時代が来るものと、覺悟せなければならぬ。

四、機械据付面積、動力、職工受持臺數

莫大小の製造機械は他の製造工業に於けるが如く其据付に尤大なる面積を要せず、至つて狭小の場所にて足ると云ふ事は、工業上の二特長とも云ふべきで、工業經濟上尠なからざる利益である事は今更贅言を要せざる處である。

次に之に附隨して、機械の運轉に要する處の動力少なく、従つて工場敷地建築費等に於て所謂固定資本が比較的少なくて製造し得ると云ふ便宜があり、又糸は大なるボヘンから連續的に供給せられ糸の張力少なるを可とするを以て糸切れがなく、従て職工の受持臺數が割合に多いので、製造能率が獨ると云ふ次第である。

職工の一人の受持機械臺數は、其種類、生産品の性質に依り又職工の技術の熟練不熟練の如何により勿論一定して居らないが例へば、裏毛綿莫大小肌糸の製造に於て大編立機は、大概一人に付八臺前後を受持つて居るのである、而して職工の之に對する勤務時間は時期により多少の差異あるが、午前七時より午後八時迄繼續し其間一時間半の休憩時間を與へて居る様であるが左すれば、此休憩時間を控除して約正味十一時間半の労働に服する事より見るも其生産能力、は實に驚くべきものある事は、窺知するに難くはないのである。

十七 斯業の缺陷

一、機械の劃一的なること

莫大小製造の機械に關しては、別項「機械の價格及能率」の題下に於て叙述せるが如く種々の機械がある其編立の機械と針のケチ(調機)が一定して居るので、假に三十番の編立機械に對しては、夫に專屬せる型の針を使用する事となり、其機械と其の針とは密接不可分のもので、三十番の機械に二十番の機械に使用する針を用いる事は絶對不可能と云ふ次第であるから、一の機械を以て別種の針を使用し巾及び厚薄種々の製品を得ると云ふが如き事は、許さないので、一の機械にては、其專屬の針を使用して一の寸分動きの認め居服せられたる種類ののみしか製造し得ないので、所謂機械に些の融通性がない劃一的な處が缺陷と見做さるゝ居るのである。

故に全く異種類の製品を得んとすれば別種の機械を使用する必要ある事は論を俟たざる處であるが、同一種類のものをせよと多少巾廣くせんとするか、將又幾分それより薄向きにするとか、或は厚向きの製品を得んと欲する場合にも、一の機械には、寸毫の融通が付かざるを以て、更に一々新なる其目的に對しての機械を購入据付なければならぬと云ふ甚大なる不便不經濟が伴ふのである。故に莫大小機械が比較的安價であると云ふも、斯の如き不便なる結果時代の要求に伴ふて、種々雜多なる製品を生産せなければならぬ場合に於ては、相當なる業者は多種多様な機械を据付ねばならぬので、之に對して相應なる所謂固定資金を必要とすると云ふ不經濟な缺陷の一面が存するのである。

此點に關しては、莫大小の將來發達に連れ是等の缺陷を補ふに足るべき經濟的に機械の改善製作を要すべきであると信せらるゝ次第である。

二、針の破損と織班

莫大小の製造に於ては、針を糸を掛け輪糸を作るものが結合して一の織物となつて居るから、其運轉中針一本にても折れる場合には、其部分にて作らるべき輪糸が出来ざる上に隣接の輪糸との結合も出来ず、直に次が生じて織班となつて仕舞ふのである、而して獨立中又は編上後も此等の補綴が困難なる處から、生地反物の外の莫大小例へば靴下、護蹠等に於ては、製造の結果其製品が二、三等品に下り又生地物に於て其織班の部分を除き裁斷せねばならぬ關係上所謂裁屑が多くなるの頗る不經濟なる次第である。斯の如く針の破損より織班を生ずるときは、それが爲めに折角相當の原料と勞力とを要したものが結果に於て二、三流品として扱はれ、製造業者の損失は尠なからざる事となるは勿論にして、内地物は扱掛き、輸出品就中上等品に此事あるがため、海外取引に於ける本邦製品の評價を傷くる事頗る多大なるものがある、歐米人の如きは斯の點に最も注意を拂ひ居る次第なると一方製造家が微細の留意を怠れる結果故意でなく偶然に斯かる製品を提供したる場合に於ても、本邦業者が故意になしたる如く思ふの傾向ある結果、此の如き微々たる行爲のため商取引の圓滑を妨ぐる如き事象を招來する次第であるから、業者は此點に就て細心の注意を拂はねばならぬ。

織班に關しては、業者若し職工の周到なる注意に依ては、或る點迄は免がれる事を得る次第である、即ち此は各サイズの針を同一種類の機械に使用せる結果に基く事もあるを以て、職工は適當なるサイズにして且つ完全なる針を夫々の機械に對して使用する様注意を爲し、不完全なる針を發見したる時は直に之を除去して新なる針を使用すべきである。

三、家庭工業と製品の不統一

製造工業に於て、如何なる商品にても製品を統一して市場に信用を得、見本によりて、大量の取引を行ふの得策なる事は今更贅言を要しない處であるが、種々なる工業の發達上の傳統的關係、並に資本關係、若くは其製品の必要供給等の關係上、其得策なるを知りつゝも、之が實現の俄かに出來得ざると云ふのが、今日の狀況である。

莫大小界に於ても亦之と軌を一にするものあるは、論を俟たざる處である、就中名古屋に於ける莫大小業は、其地物と言はす靴下襪又はシャツ、スウェーターと言はす大方家庭的の小工業家が多いのであるが之が原因として、前述の如く莫大小製造に於ては、他工業より種々なる特長を有し總ての設備が簡易に出來得る關係上、小資本にても容易に事業を開始經營し得ると云ふ特點の存する事と一方未だ大量取引が振はす其結果、間居側に於ても區々たる商品を取引する以上差して信用に影響を及さぬ處から、此等小工業者を利用し得る事に基因すると見做されて居る、斯の如き區々たる小工業家によりては、整一なる大量製産を善く一致する事は困難で、特に色合、染色、整理、等の不統一に終るは寧ろ當然なる事象である。

商品が見本と一致するの必要な事は、從來常に高唱せられたる處にして、近時製品の相違はあまり見えざるも、寸法、日方等の一致せざる事は尠歴々耳にする處なるが、此は本邦機械工業の十分發達せざるがため、餘義なき次第ならんも、何等かの方法に依り幾分此缺點を除去するは、今後本邦品販路擴張上の緊

急事である。

歐米諸國に於ては、製品中の普通品を見本とするを以て、其不平を聞くこと渺ない、然るに本邦に於ては其最上等製品を見本となす向多く、従つて商品は多くの場合は以下のもにして、屢々不評を招き疑いて取扱商の社文を手控ふる等の事實尙尠しとせない、之を要するに本問題は製造機械の進歩と製品の齊一とに依り自ら解決の途に入るべきであらう。

製品の不統一よりして内外に於ける信用を傷くる事は、一方ならぬものがある、製品の社文に於て、見本と製品が異なる等の非難も敢て故意にのみ依るにあらずして、區々たる小工業家の製品を寄せ集むる結果として、止む事を得ざるに職由する次第も亦頗る多いのである。

次に莫大小業が微弱なる少資金にても家内工業的に經營せられ得る關係上、本市に難多區々なる小工業者が發生せる次第であるが、是等は莫大小事業の趨勢大局に着眼する等の事は、殆ど稀にして、所謂其目暮し向の目前の小利にのみ没頭せる結果、敏活なる同屋筋に利用せられる傾向あるは、否むべからざる事實である、又此等小工業者中には右から左へ進繰り算段にて經營せる者も相當あるがため、資金に困難を感じ居る者は、勢ひ同屋筋に纏りて金融を爲す等の事は行はれずには、同屋は一面に於て小工業者に對して金融業者の立場となり、従つて債権者の優遇なる地步を占むるに反し、一方事業者は、債務者の立脚地となり、勢ひ心ならず同屋筋の裁量に追隨せねばならぬ破目に陥り、従つて製品の價格等も一般市價の高低と歩調を一にせざる様なる事象も往々惹起して、頗る業者の不利を醸成する次第である、是れ應て微弱なる家庭的な小工業發生の缺陷とも稱すべきである。

四、職工養成機關

一投資本家が、莫大小製造事業の前途有望なるを見越して、斯業を始めんとして、差當り熟達せる職工又は技術者を得難い爲めに、折角の意志を驕する者があると云ふが如きは、斯業發達の爲め誠に遺憾の極である、又特に時代の進歩需要状況の變遷に伴ふて、新式の機械に取換へ様とする當業者が差詰の困難を感ずるは、矢張技術である。

斯の如き實狀の由て来る處は、本市に於て専門に斯業職工又は技術者に對して、斯業の學術的教育機關が缺かして居るが爲めである、忌憚なく謂へば、莫大小製造機械は、自動装置又は特殊の物を編むものになるに從つて、複雑を極め決して短時日に之を習得せしむる事が頗る困難である、又機械の種類を異にすれば其の機構も全然異なり甲機の熟練工と雖も、乙機に對しては殆んど素人と同じき状態である。

然ど雖莫大小を相立つると云ふ理論より觀すれば、甲乙相と異なる處がない、と云ふ次第であるを以て、此原理と應用の方途を授け且實地の技能を教ふる事が出来得たならば、實本家は勿論、職工、技術者を益する事頗る大なるものありて、莫大小業の發達に資する事多大なるものあるべきは今更贅言を俟たざる處である。勿論製造業者中には、夫々規模の大小に依り各自職工の養成に努め居る事情あるは前項に於て叙述せる處なるが、之は單に其工場に適する機、其使用機械の種類に關してのみ條練せしむる様の方法を以て居る關係上、他の異種類の機械に關する知識訓練の如きは、問題外であると云ふのが、其實相と、茲に云ふ處の普遍的機械知識の養成等の秩序的組織は、全く缺かして居る次第で、此が斯業にとりては重大なる缺陷の一であること云ふも敢て過言ではないのである。

五、整理の不完全と原因

九六

總の商品は、品質其ものを良くすると共に整理及化粧裝飾に依て、需要者に満足を與へ、聲價を昂むる事は云ふ迄もないが、本市莫大小界に於ては、未だ此整理の點に於て缺陷がある様である、是は一面に於て小資本の製造業者が多く其製品は、所謂問屋任せと云ふ状態のもの多數である關係上、當業者が需要者に近接する機会が尠ない故自然自家製品の得失の點を發見するに困難なる點もあらんが、要するに其日／＼を暮して行けばよいと云ふ見解から、社會の進歩及び莫大小界の趨勢を遠視する事が出来ないといふ關係に坐するものがある。

整理の不完全の爲めに蒙る影響を思ふ時は、甚だ寒心に堪へざるものがある、即ち整理の缺陷は、總て製品の粗雑となり、一般名古屋製品の聲價を傷け、其結果は所謂名古屋物は、粗製品であるといふが觀念を内外取引顧客の間に惹起せしめ、取引上頗る不利益を醸す事となるので、價格も從つて安値に墮する、と云ふ事となる次第である、内地取引に於てもさることならず、對外取引に於ては、一層なるものがある海外顧客は、製品其物に置く信用は甚大なるものあるを以て、一度粗製品たる事が露はれ周知せらるゝ時は、此信用を回復するには、實に容易ならぬ困難を來すのであるを以て此點は、業者が一段の深甚なる注意を要すべきである。

斯の如き整理の缺陷の由て來る原因に就ては、種々複雑なるものあらんが、要するに小資本製造業者の發生によつて、唯目前の利害、金融等のみ没頭して、名古屋莫大小の價聲を自覺せず永遠の地歩を確保するに努力せざるに基く次第であると斷すべき理由が存するのである。

六、仕上の不備

本市莫大小の仕上げ即ち裁縫の點に於ても粗雑に流れて、需要者の迷惑少なからざるものがあるとの批難がある、夫は縫目が直ぐに破れる事でも、之は極細に於て其缺點は一層甚しいものがある、又次に縫針及縫糸が生地に適合して居らぬことである等或は如の根柢がしてないとか、裏糸が切つて無いと云ふが如き、些末の點に於ても、何れも仕上げ裁縫上の缺陷と云ふ次第である。

内地向製品に於ても、此種の缺點の存するは、勿論であるが、殊に南洋印度向に多いと謂はれて居るも、之はあながち名古屋製品に限つての事ではないは、勿論である、然らば、斯の如き裁縫上の缺陷は如何にして起るかと云ふに、是は裁縫機械の善惡に基く事も相當なる理由と認むべきで、取て技術が未熟である爲とのみ云ふべきではない。

概説すれば、裁縫に際して、採算關係並に賃銀關係等より生産能率を増進するに急にして、仕事を粗雑にするといふ事が大なる原因であると思はれて居ると一方裁縫に於て糸のかざり方が外國製品に比して單純過ぎる爲め勢其結果は、粗漫に流るゝ處から前述の如き缺陷が暴露される次第であるといふべきである。斯の如き缺陷の大部分は、名古屋莫大小の聲價發達に注意する業者の自覺如何によつて、除去せしめ得る次第である。

七、シャツ類目方販賣の弊風

元來莫大小製品は、其種類のシャツ、靴下、手袋、等何たるを問はず、何れも打を以て其單位とし、單價標準も亦打にて計算し居れる關係上、其販賣に於ても打若くは小賣に於ては一枚、一個として、打價格よ

九七

り換算したる割合にて爲し居るが普通の商取引なるに、茲に奇怪なるは、シャツ等に於て日方を以て一貫如何程と云ふが如き重畳販賣を爲し居るものある事である、勿論之を行ふは、多くは、綿莫大小のシャツ等である。

此等の方法に依りて販賣するは、敢て多数なりとは謂はぬが、兎に角一部販賣者の間に行はれて居る事は事實である、斯の如きものは一部賣れ残りストック品の撤拂が若くば、一部小製造業者の事業上の整理品の所謂投資品等が多く、此方法によりて、販賣せらるゝと云ふも亦一面よりするときは、斯の如き整理品にあらざるもの迄も小製造業者の金融難に附入りて薄かざる小販賣業者が殆ど踏倒しの安價を以て買取り、一時も早く資金化せんが爲めに本来の商習慣たる取引方法を無視し、且一般眞面目なる業者の取引相場を擾亂して迄も前述の如きシャツの目方販賣を爲す者もある次第である。

斯の如きは、所謂商道徳を無視し一般眞面目なる業者の被る迷惑頗る大なるものあるは、勿論にして、大局より見る時は、本邦莫大小の弊價を傷くる事夥しいものがあつて存すると共に、對外的には名古屋莫大小の信用を失墜し、名古屋品は、粗製品であると云ふ事を裏書する一の宣傳の如き事となる次第である、是は本邦莫大小界の爲めに業者互に相戒めて斯かる弊風の根底より一掃すべきである。

八、英國向製品の缺陷

英國が本邦莫大小の一大消化地たる事は、當業者の既に熟知する處であるが、借て如何にせば英國向の生産品を製造し得るかに就ては、斯界當業者の常に關心して居る處であるが、其實際に當つては、随分困難の問題であるが本市業者も亦此嘆を同じくして居る。

此時に當て我製品に對する需要者側たる英國の本邦莫大小取扱者關係者の本邦製品に對する忌憚なき忠言を聴く事は業者にとりては、敢て徒爾ならざるものありと信するを以て左に綜合的概観を述ぶる事とする。

1、紡績

原料たる莫大小に關しては、改善すべき餘地甚多きも、殊に紡績の均一と云ふ點に就ては、一層其感を深ふするものがあるが、多くの場合に於て次の如き缺點がある、例へば、十番手と稱する糸が、實際は六番手乃至十八番手のものがあり、決して、一様ならざる事である、實に紡績の均一と云ふ事は、忽にすべからざる次第である。

2、生地 (オボロ)

在來の如き斑條のなき完全なるオボロ色のものを製造出来る様努力すべきにて、此點に關しては、獨逸製のオボロ色は、殆ど理想的のものであるが、少くも出來得る限り同國製品に近きものを生産し得る様研究すべきものがある。

3、糸

糸は柔軟に紡績する様努力する必要がある、多くの場合日本品は然り堅過ぎる傾向がある、而して適當なる機が否かは、經驗ある編立及仕上方により發見し得る次第である、概して仕上りたる生地は、一般に粗糲の感がある。

4、編立

完全なる生地を編立てるに際し、一大障害となるものがある、开は工場にある機械の大部分は、使用する

糸の種類に應じて、速度の調節を計る事なく、直ちに運轉せらるゝ事である、其結果たるや數多の針が破損し、屢々生地を損傷する事である、併ながら機械速度軽減の結果生ずべき損失は、品質優良なる生地を製造する事、並に破損生地の繕ひ、又は切斷等を未然に防ぎ得る事に依て十分に償ふ事が出来るのである。

5、針

針に關しても改善すべき點は多々ある、各種莫大小生地を檢するに機械の多數ある事を發見し得るが、右は各サイズの針を、同一種の機械に使用せし結果なる事と説明出来る次第である、機械扱手は、宜しく適當なるサイズにして、且完全なる針を、夫々機械に使用する様注意を促し、而して不完全なる針を發見したる時は、直に之を除去する様に努めねばならぬ。

6、仕上 (洗濯、晒、染色、フレツシング、起毛)

此は最も重要な問題である、何と云へば此等の結果、生地を改善するか、將又損傷するかの何れかである、故に此等の點に關しては、大に改善考究すべきものがあるが、次に之を分類的に述べる事とする。

(A) 晒 及 染色

此等の改善に關しては、事頗る複雑にして、現實に意見を違ふる事は、困難であるが、當今歐洲市場に於て使用せられ居る、最新式機械の明細に關しては、専門的に叙述せねば要項を擧ぐ事不可能に屬するを以て略する事とする。

(B) 起毛

起毛に對する改善に就ては、十分の餘地ある事を信する、現今日本の諸工場の機械にて製造せられて居る

メリノの仕上として知らるゝものに關しては、生地表面均一に起毛せられ居らず糸縮の露はれ居るもの、或は全然起毛せられざる箇所等あるを發見せらるゝが、該目的のために使用する機械中、最良と謂はれて居るものは、英國ロツシユデール市トムンツン製のものである、該機械は完全に起毛し得る一切の設備を有し、表面又は裏面の何れにても、或は両面にても、一時に起毛し得るものである、要するに起毛の完璧を期するには、斯の如き最新式の機械を使用するに如くはないのである。

(C) フレツシング

ブレリン、スチール、ローラーを有する日本工場、現在の機械を使用する時は、色物の場合は光輝ある面を現出すれども、濃色の場合には醜麗たる状態を現す傾向がある、メリノ及起毛物に在りては、扁平にして手硬き表面を現はして居る、然れども英國に於て使用せらるゝ、最新式の機械、カレンダーツシヤを用ゆる時は生地は、フェルトの上を通り、且乾燥せる過熱蒸気が此處に誘導せらるゝを以て、其結果頗る高尚なる仕上となり、メリノ及起毛物の如き生地は體裁極めて良好である。

7、仕上 (裁斷、裁縫、プレツクス等)

此に就ては、フラット・シューミング機械の使用は最も妥當である、而して最後の仕上げに關しては、一層嚴重なる注意を要する、品物をプレツクスして荷造をする以前に於て、或程度の検査方法を實行することは、最も肝要である、目に見ゆる繕ひ又は油污み等を有する品物は、二等品として分類し、決して一等品と混ぜざる様注意すべきである、優良品と不良品を混同して包装する事は、決して好結果を齎すものではない、多少の不良品が混入することを發見せらるゝ時は買手は直に品物全部が不良なりと考ふるものである。

油污の品物は全部洗滌し（這は最初清浄なる油を使用せし場合は、些少のペトロール又はベンゼン油を用ゆれば、容易に洗滌をなし得）而して繕ひ又はプレススする必要がある、斯る後前記油污又其他の環疵等目に見えざる程度のもならば、此等を合格品として出荷するに差支なかるべく、其他の品物は全部再除品として分類すべきものである、這は英國の買手は凡て完全なる品物に對してのみ、契約する事に基く故である。

8. 荷造

荷造に關しては最注意を要する重要問題である、包紙、荷造の糸、ボール兩等は、其初に於て最も好成を與ふるが如きものを使用することを望まじき事である、最初の好成は買手の信用を増し、販賣を容易ならしむる素因である、併ながら此等體裁の可なる故を以て、直に品質劣等なる品物造も賣れ行くど云ふことにてはなく、唯相末なる包装、不體裁なる荷造は販賣を妨害し、優良品の受渡にも影響するものである事を謂ふのである、印刷せるレッテルを使用するよりも寧ろ包装紙の上に直接印刷する方途に宜敷のである。

十八、斯業の位置

本市莫大小製造業の近況を観るに、單に生産數量に於て非常な發展を呈したのみならず、一方製造技術も亦異常の進歩を示したるは業界の爲め大に祝慶すべき事象である、殊に昨年震災の直後に於て國民の生活必需品たる莫大小製品が、本市の業者によつて逸早く罹災民に供給せられ復興事業に轉ならざる貢獻を爲し得たるは世人の記憶に新なる所である。

震災以前の各地製造の長所を観るに、東京は最初舶來の模造を主とし、價格に於ても上等の部に屬するものを産出し殊に毛製品に特別の技術を有し、綿莫大小には主として細物を使用した、要するに東京の製品は上流向であつた、大阪は従來販路廣き安價物を製造する特長を有し従て製品の種類も多く靴下手袋共に盛に製造せられた、本市は一般に販路の廣きものを製造し、天竺物は少く主として羊毛物を製造し織手袋は盛に於て他地方に比して安價である、横濱は専ら船靴下、手袋、肌衣、ジャケツ等を製造し、絹莫大小の製造は此地を中心に盛に發展しつゝあつた。

兵庫縣下は綿靴下を盛に製造し大和は靴下及び多量の生地を産す、和歌山は生地賣り盛にして、全國の市場へ移出せられて居る、四國は近時手袋、靴下の製造漸く盛ならんと居る、河内は生地又は靴下を製造すれども主に工賃仕事を爲し、和歌山大和方面の如く自ら糸を仕入れて生地賣をなすものではない。

上我國に於ける莫大小産地の狀況を概説したるが、要するに、震災前は産額に於ては大阪、東京、名古屋の順序、品質に於ては東京、大阪、名古屋の順序であつたが、昨年の震災は關東地方の莫大小界に根本的打撃を與へ、曾に東京の本所、深川の製造業者をして再起の餘地なき迄に至らしめたるのみならず、販賣業者をも殆ど無資金の状態に陥らしめたる結果本市の莫大小界は實に大阪に亞ぐ重要な地位を獲得するに至つたのである。

震災後一ヶ年の間は本市の斯業は靜かに震災地方斯業の復興狀況を監視し居たるも、其後復興の餘り見るべきものなく、最早商業道德を遵守するを要せず、今や本市の斯業は既然と起ちて國民必需品の供給を圓滑にし以て國民生活の安定を計るべき重大なる使命を帯ぶるに至つたのである。

本市斯業の地位斯の如く重を加へ、雷に従来の製造に甘する處無く、關東地方に於て製造せられたる高級品をも進て供給すべき氣運に達着したるのみならず、製品の種類をも増加するに至つた、即ち従來除り製造せられざりし靴下は、内外編物株式會社の設立により一躍本邦の首班に列し、外國製品に比して何等の遜色なき品を生産し得るに至り、其他コットン式毛莫大小シャツ、ゴボン下等の毛製品に於ても、近時長足の進歩發展を示し、名實共に本邦に於ける重要な莫大小産地たるに至つたのである。

一、肌衣類は已に舊套を脱し、細物毛製品に於て頗る上達せり、夏物又相當の出来栄を見たるも尙先進地に及ばざる處し。

二、靴下は毛編に優秀なるものあり、靴して長編に秀づるも短編に劣る觀あり。

三、手袋は概して可なるも、形狀の工夫未だ足れりと言ふべからず、縫製又至らざるものあり、腹巻、首巻に於て考案の見るべきものあり。

三、將來の方針

一、經營組織の改善

良好の品を安價に供給する事が、工業特に製造業者の標語であらねばならぬ、故に設備、機械等を新式のものに改善し、職工に熟練者を得、優良なる原料を使用して工費節約に依つて、之を補ひ以て良好の品を

製造する様に努むべきである。

之を爲すが爲めには、如何にしても、資本の大なるを要する、特に原料を安い時期に買入れ置く事は最主となる條件であるが、遺憾ながら小工業家はよく此條件を満足せしむる事は出来ぬ、是に於て名古屋の斯業を發展せしめるには大體次の如き方針を採る必要があると思ふ。

第一に莫大小の小工業家は、斯界發展の爲には區々たる小利害を突破して更始一新し、宜しく合同を決定して、以て原素の購入を行ひ、最安價の際にして共同的に其時期に生産に必要と見るべき分量を買ひ置き、之によつて生産せられたる製品に對して、出來販賣する事に努力すると共に製品の統一向上を計るべきで、特に整理工業を盛ならしめ、出來得る限り分業的に作業を爲すべきである。

第二段としては、資本家に對して、莫大小業に投資し、且進で之が經營を勤める事が必要である、之を爲すには、先づ資本家をして、莫大小業の有利であり、且將來發展率の甚大なる事を周知せしむると同時に莫大小に關する知識を出來得る限り諒解せしむる爲めに、あらゆる方法を以て宣傳する事が最も肝要である、之に對しての方法は、種々存する事は云ふ迄もない。

第三としては、莫大小製造に關する機械程難多して而も、日に月に工夫改善せられて新式なるものが現はれることは他に其比を見ない位である、故に昨の新式は忽ち今日の舊式となると云ふ狀況で、實に轉々變化して行くのであるが、勿論それには各特色を有するもので、生産士大小に拘はらず特徴を帯びて居る事は勿論であるを以て、新時代の要求に順應し行くには、勢ひ出來得る次新式の機械を採用するに努めねばならぬ結論が生ずる次第である。

次に經營改善の一部として、組合經營上に關して、其一端を叙述するならば、現行組合法は時勢に順應せざる消極的規則にして經營上組合員をして迎合せしむる事が不可能なるを以て、産業組合法の如く積極的方法に改正の必要を認めるのである、而して同一製品の生産、販賣と雖商業と工業とを劃然區別して組合を設立せしむるを要する。

尙現行法に依らざれば強行加入の規定あるを以て之に對する強制徵收法の規定を設くる必要がある、之を行ふには、先づ既設組合を整理して完全なる組合にのみ之を許す事とする必要がある。

二、研究會の設置

本市莫大小の發展を期するに於ては、種々なる方途の存するは云ふ迄もなき處であるが、其一方法として、莫大小の各製造種類により各別々の當業者をして所謂研究會と云ふべきものを組織せしめ、他地方に於ける自己等と同種類の斯業視察を爲さしめる一方、市場の趨勢、工場經營、管理等の研究を爲さしめ、彼我の比較研究を爲し以て、彼の長を探り我の短を補ひ絶えず研究改革を懈らざる事に努むべきである。次に莫大小の製造は今日に於ては、一國一地方的生産品として、小天地に調路を許されぬ状態に迄發展し原料の需給關係、既成品の販路等より觀じて、所謂世界經濟の連鎖を有する關係よりして、獨り世界的經濟思潮より超然たるを得ない立場に立脚して居るので、從て海外の斯界事情の研究調査は一日も怠惰に附する能はざるものがある次第にて、之が迂遠なればそれ次第に後藤を拜して不利益を甘受せねばならぬと云ふ事象が招來するのである故、海外先進國に於ける斯界の消長を究むる必要がある。

莫大小事業は、何と云つても歐米より移植せられたる、舶來的の事業なるを以て、歐米の斯界は一日の長あるを否む事は出来得ない次第で、歐米に於ては、常に機械の研究に膺心して月に年に新式の機械が案出せられて改善を加へられて行くので、之と没交渉であればある程、舊式の能率の掲らざるものに甘じて居らねばならぬと云ふ事になり、其結果生産品は劣ると云ふ事となり、販賣上品質價格等の點より見て歐米品と競争する事が困難となる次第で慘らしくも劣敗者の位置に立たねばならぬ事となるを以て業者は、常に此に留意し、之が缺陷より脱出する事に努めねばならぬが、それには研究機關を興して、時々講演會等を開催して、新道の研究者或は斯界の海外視察者を聘して、歐米の事情を聴取すると共に、斯業の最新なる機械を紹介する事に努むべきである、然るときは、業者の智識を啓發し事業上進取のとなり、自然に困難を突破しても、能率の大ある最新の機械を採用すると云ふ機運を醸成する事となる次第である。

三、徒弟教育の必要

本市の斯業は前述の如く、逐年盛況に起き、爲に小製造業者の叢生を見るに至り、常に製品の統一を欠くのみならず、製造上の責任觀念を稀薄ならしめ、動もすれば粗製濫造の弊に陥るが如き傾向を生じ、本市の斯業の爲甚憂慮すべき情勢を惹起するに至つた。

抑も莫大小製造工業は、頗る複雑なる工業にして、工程の種類も亦多岐多様に亘るため、其間分業の行はるゝは經濟上當然の現象と云ふべく、大は幾百萬の資本を擁する大規模生産より小は僅々一二臺の機械を運轉し、此に使用する原系は自家の製品を納むる所謂問屋より供給を受け、單に工賃仕事を爲すが如き純

然たる家内工業に至るまで實に千差萬別の状況にして、斯の如く複雑工業の經營上の規模に大小程度の甚しきは一應止むを得ざる所なるも、今や工業界一般の趨勢は到底かゝる小黨分立を許さず、苟も一國の工業を發展せしめんとするれば各自競ふて大量生産の方策を講じ以て生産費を低廉ならしめんとしつゝあるは、極て明瞭なる所である。

本市の小製造業者の中には職工出身者あり、彼等が粒々辛苦の結晶を以て獨立自營するは大に敬意を表するも、彼等は概して教育の程度低く、彼等がメキヤス機械に關して具有する所のは、單なる經驗と成機械に限られたる熟練に外ならず、一朝の機械を操作して經驗なき製品の製造に従事するや、常に其生産能率の激減するのみならず、其機械の微細なる故障に對しては、臨機應變の處置がしむが如きは、斯業に關する基本的智識の欠如せるを裏書して居るものである。

以上は主として技術に對する彼等の不用意を糾したるに過ぎざるも、此外斯業經營上日々當面する經濟上の事情に對しては、殆ど無智、無用意と斷ずるも過言でないのである、即ち彼等は一度業を起さずや往々にして昔日の辛苦を忘れ、工場主然とし其得意思ひ半に過ぐるものもあるも、激甚なる生存競争は彼等をして永久泰平の迷宮に陥りて而かも此を放棄すべきに非ず、財界一度動亂に陥るや、經營上同潤借株の能を欠く彼等は忽ち窮地に陥り、少額の資金は枯涸を告ぐるに至るや、職工時代を享う氣樂なりとなし、多年の努力によつても得たる工場主の地位を一朝にして披擲するが如きは、彼等の爲め惜みても尙餘りあるのみならず、斯界の爲にも亦頗る憂慮すべき事柄である。

かゝる弊害を除去するには幾多の方策あるも、將來工場主として獨立自營せんとする徒弟に對して斯業經營上最必要なる基本的教育を施すが如きは極て重要にして、其効果も亦頗る大なるべきは信じて疑はない所である。

近來我國に於ても雇傭主の自覺に伴ひ、徒弟教育は重要視せらるゝに至つたけれども、此は主として商業方面の徒弟に限られ工業方面の徒弟は未だ此種の恩恵に浴するもの極めて少きは争ふべからざる事實にして、此方面に關する教育は是非工場主の自覺と其必要に俟たなければならぬ。

今此方面の最近の例を我國に取れば、同國ペンシルヴァニア州ヒツパルク市の扱金工組合で最近開始した労働者教育法は、斯界に一新生面を開きたるものとして一般の注意を喚起して居る。

此は同組合員たる一定の徒弟を四年の長きに亘つてカーネギー工業學校に就學させる方法である、従來は労働者組合も其徒弟に高等教育を授けやうとする努力は多く見ることが出来なかつたし、又學校側は労働者の徒弟に學校の講座を開放して専門的智識を授ける量を示すものは無かつた、然るに今や同組合が其徒弟をカーネギー工業學校に就學せしめるに至りたるは少くとも我國の労働組合が組合として専門科學に興味を置かれて来たことを意味し、同時に又組合員の質的向上の誇るに足るものたしむる余である。

上記の計畫は労働組合、資本案、及學校の三者の協力に依り産み出されたもので、業主は其徒弟の就學時間を正式に承認し通學中と雖も規定の賃銀を支給する契約であるが、彼我我國情を異にして居るを以てかゝる方法及び制度を其採用するを得ざるは多きを要せざるも、労働者の利益を代表する機關と資本案及學校當局との三者の協力は根本的必要条件であるが、今本市メキヤス界の現況に於ては職工組合の如き一般

統一ある機關が備はつて居ない様な有様であるから、先づ彼等の利益を擁護し、彼等の向上を謀るために大同團結をなすは急務であるが、一面工場主、販賣業主等所謂資本家の機關たる組合が其使用する職工或は徒弟に専門教育を施し、彼等の労働力の實質的向上を謀るは即ち資本家の利益に歸せらるべきものなる事を自覺し、「最も公平なる態度を以て就學せしむべき者を選定して、此に強制就學を爲さしむるが如き規定を設け、互に其使用者の優秀を誘ふる境地に進むべきは、如何なる見地よりするも緊要なる所にして、斯の如きは、寧ろ彼等の義務なりと言ふも、敢て過言でないのである。

近來吾國に於ても、教育當局者の自覺に伴ひ、教育の機會均等主義の實現を見るに至りたるは、吾人の發意を表するに吝ならざる所にして、即ち過般文部省主催の成人教育を初として各自自治體が其經營する學校を夜間商工補習教育其他各種専門教育に開放しつゝあるは、教育普及上慶賀措く能はざる處である。

斯く觀じ来らば、本市英大徒弟教育は、借主と其用人との自覺に於て百尺竿頭一步を進むれば直に實現し得るの情勢なるを以て、本市斯業の發展を期する上に於て此種教育の實現せらるゝ日の一日の速ならん事を切に望む次第である。

四、種類の制限と單純化

社會の進化と共に、生活上に要する使用品の種類が益々多種多様になるのは亦已むを得ざる事とするも、其一種類の品が更に其形狀、色彩、寸法等に於て多様に分れ、今日に於ては遙かに其必要を超越し、徒らに世の贅澤を誘導し、獎勵するの具となるに過ぎぬ。

例へば肩掛の一品に就ても、其種類の多種多様なるは勿論、年々の流行變遷は實に過勝すべからざるものがある、亦莫大小製品に就ても同様で、之が應用品の擴大せらるゝは、業界の爲め喜ぶべしとするも、同一品種、例へば肌着の一種、襪股の一種にしても其一種中に、生地に於て、色彩に於て、形狀に於て、仕立方に於て、實に煩雜多様である。

勿論此等のものは裝身具として、人々各自の趣味に投ずる必要上、形狀、色彩其他に於て趣を異に事にする事も、亦已むを得ざるも、其必要な、單に實用に適すれば足るものに於て、尙ほ奇を街ひ癖を競ひ、各種のものを製出せんと謀る、其結果は勢ひ生産費を多からしめ、高價なる品を、新奇を好む人の性弱點に乗じて買付けるのである。

夫は作るものが悪いが、買ふものが悪いかは別問題として、新奇なもの好むは、人性の通有性で、爰に新しき、一寸目先の變つたものが出来れば、己に其物を所有して居て、未だ使用に堪えるに拘はらず、更に新奇な物を求めて、自己の慾望を満足せしめるので、特に流行性を帯びるものに在りては、一層其弊の甚しきものがある、之を一個人としては、無益の浪費となり、國家としては生産能率の不进、有用品の廢物となる損失等其不利は決して尠少なからざるものがある。

而も今日世界各國が、其生産品を各地の貿易市場に出して、製品の優秀價格の低廉を以て輸贏を争ふ時に當りては、出來得る限り生産費を減少し、品質を製して一層精良なるものを出さねばならぬのは當然である、それを期するには、一工場で各種各様のものを製しては職工が其製造に熟練する餘地もなく、機械又は材料等も多種多様に備へねばならず、包装、附屬品等に就ても亦複雑となり、従つて固定資金を要し、

製造能率は弱らず、製品は勢ひ高値とならざるを得ない。

各種の製造工業に於て、其生産費を低減せんがため、努力の節約、機械の應用、製造工程の節約、労働能率の増進等を圖るは、早くも陳套の策に屬し、今や産業の根本的改革として、製品の畫一又は單純化を首唱し、現に之が實行を努めて居るものがある。

夫は即ち、何事にも新機軸を誇とする米國で、前記の如く現在生産せらるる、諸工業品の種類、形狀、寸法等が餘りに多種多様に亘り、實際の必要を超えたるものも多く、従つて之に伴ふ元費著しきものがある、之を畫一にし、單純化するに依て、其元費を節約し得るならば、商工業上に裨益する處甚大なるものがあること云ふのみならず、米國では政府が卒先して之を誘導し、民間に於ける運動に努めて居る、即ち政府の施設として三あり、次に民間に於ける運動團體としては、五個あつて、右の團體中には、己に製品の種類を減少して、一千九十二種を百三十七種に、一萬七千種を六百十種に、二千七百五十七種を七百六十一種に定めたものもあつて、其運動は着々實現せられてゐる。

米國の斯の計畫は、更に一步を進めて完成品の種類に制限畫一を期せんとするのである、勿論米國と本邦との製造工業状態は、甚だ相違して居る點もあり、又莫大小製造上に果して之を適用せられ得るや否や、若し適用せられ得るとしても、之が實行迄には尙十分講究の餘地を存することは、併し製品を單純に畫一することが、生産費を減じ能率を進め、品質を向上せしむる點に於て最も効なることは争ふべからざる事實であるから、我莫大小製造業に於ても、少くも此方針を以てすれば、意外に有利なる効果を取れ得べきものと信ずるのである。

五、生地販賣と時代の要求

莫大小製造は本邦としては、比較的近代の事に屬すが、其時代の要求に順應せる結果之が發展率は實に一大驚異に値するものありて、他の工産品中嶄然頭角を表はして居るものがある、從て始は單純なる種類にのみ限られたるものが、漸次多種多業なる製品が生るゝに至つた次第である。

特に近來西洋趣味の物類は、婦人、子供の服、並に下着等に至るまで駭々乎とて、普通本邦産物の領域を犯し來れるは、争ふべからざる現象である、即ち莫大小が發達すればする大織物範圍が寛容せられ行く事となるのである。

是に於てか家庭に於てミシン織縫が非常な勢を以て發展し、津々浦々に至る迄其普及擴大せられつゝある今日にては、單に從來の如く型に嵌まつた既製品のみを供給するが如きは、今日の複雑を極めたる社會状態に於て、經濟上の需要の發展を阻害する事甚大なるものがある。

如何に莫大小製品の種類が分科的に進展しても社會の需要の多種多様なるに對して、一々之を充す事は實際上不可能であると共に一方莫大小の如く一種につき一機苑の機械を要し、所謂機械の融通性の欠如せるならぬと云ふ事と大次第であるが、斯くの如きは、實際上より見て、經濟上の需要關係並に機械製作成は購入の資本關係よりして到底實現し難きは、今更諷者を俟つて始めて知るべき問題ではないのである。

是に於てか之が缺陷を補ひ、複雑なる社會の時代的要求に應ずるには、勢ひ今後は、普通反物の如く生地

を其製造販賣して、一面裁縫を家庭に任すと云ふ事が最も肝要なる事である、此點は欧米に於ては、已に實行せられて而も時代的要求に合致して益々發達の傾向を示して居る生きたる實例に觀みて我莫大小界にとりては、大に注目すべき重要問題で、業者は宜しく茲に着眼して實現を期すべき模努力する必要がある、勿論之を實現する際には、之に適合する専門の編立機構を要する次第である。

六、販路の開拓

本市産業上の通弊は、生産には極めて積極的態度を保持するに反し販賣の段になるところも消極に陥る事である、莫大小業も果して此例に漏れず、此が生産方面に於ては發展の跡大に見るべきものもあるも、販賣方面に於ては何等積極施設を見ず、折角優良品を格安に生産し乍らいざ販賣など、他地方の商人に甘味を販はれて了ふ様な傾向のあるは、誠に遺憾なことである、故に目下本市斯業の急務とする處は販路の開拓である、此が爲には、視察は勿論時々調査員を派遣し、或は領事其他商務官等の機關に調査を依頼して商況を知ると共に、各地に特産品展賣會の如きものを開催して製品の眞價を實際に宣傳して信用を高め、水久需要の基礎を作るが如き事が極めて重要である、又宣傳萬能の時代であるから大々的廣告によつて販路の擴張を計るが如きも極めて有効なる方法で、震災以來本市斯業の地位に鑑みても一層其感を深くする所である。

最近愛知縣莫大小同業組合が主として東北及北海道方面へ宣傳の爲めポスター五百枚を頒布した、今其宣傳文を掲ぐれば左の如くである。

商業助成機關として同業組合

左の御用の方は遠慮なく本組合を利用下さい

- 本組合のメリヤス業者ご新規取引を御開始の場合
- 本組合のメリヤス相場を知りたい場合
- 本組合のメリヤス業者を御調査になる場合

要するに、此種の事業は同業組合の事業として最適はしいが、此が爲には相當の經費を要するを以て各業者が其必要を頓成する事が根本的に必要であるし、又一面に於て本市製品の信用を高める爲には商標、荷作り、其他成りぬる點に零細なる注意を拂ふ事が緊要である。

販路の開拓と密接な關係を有するは販賣組織の改善である。

内外市場に於ける販賣状況を見るに甚だ寒心に堪へざるものがある、抑も内外國を問はず一國商品の眞實なる販賣機關は即ち小賣商人である、其の數に於ても亦多數である爲に同業者に於て安賣競争が行はれ終には賣崩しとなるのである、假に一商店に於て非常の賣行を呈したる商品ありとせんか、他の商店は其賣行を見て其生産者へ向け頭々注文を發し、終に賣崩しの競争となり、甲より乙、乙より丙と益々低下し、結局共倒れとなり損失を來すのである。

依て販賣組織の改善は、製造業、卸賣業、小賣業三者が統一的に販賣組織を改善するに非ざれば如何に製造業者の監料を嚴にするも粗製濫造の弊を矯正するに至難の事である、然らば販賣組織を如何に改善すべきかと云ふに、一定の商標品は其實割きたる商店に於て一手販賣をさせる事而して何處までも品質本位に

立脚し如何なる有利なる註文に接するも製造家は、一手販賣以外の註文に應せざる事と爲さば永遠に販路を維持し漸次此が擴張をなし得ると思ふ。

己に屬々述べたる如く本市莫大小製品が内外共に需要漸増し、其細布の状態より觀察する時は實に世界的商品と稱するに足るべく、其將來は多大の瞻目を以て幾多事業家の企業熱を刺激しつゝある次第にして、之が一般織物の領域に侵入して人間生活に對し幾多の利便と經濟とを齎らし得るは又近き將來に在るものとして世界の各所に於て熱心に研究せられて居る。

曩て我國の工業界の趨勢を觀するに、綿糸紡績業は異歐の發展を示したるのみならず、一般に織維工業は概して極めて順調なる向上進歩を示しつゝあるは、明瞭なる事項なるが、就中莫大小工業は原料たる綿布紡績業の進展に伴ひ、僅々五十年間に長足の進歩をなし、工賃の比較的低廉なるも兩々相俟つて現今に於ては世界に於ける重要な莫大小工業地たるの位置を獲得し、對內的にも對外的にも極めて重大なる使命を擔ふに至つたのである。

是に於てか海外の事情は獨り輸出業の計畫に委ねて何等積極的方途に出でざるが如きは、時代の要求に伴ふ所以にあらずして、工業家が自ら進て海外の商況を觀察し親しく風土人物に接し、販路擴張の基礎を確立せんとするは、最時宜に適したる計畫にして、斯の如くして始めて吾人は意を強くし得る次第である。

此が實施には幾多の日子と多額の費用を要するを以て頗る至難なるも、國家産業の開發に關し、之が實施を切に望む次第である。

現に英領印度と直接取引を開始し彼の市場に於て我莫大小製品の真價を認めしめ、爾來漸次取引の増加を

見るに至りたるが如きは、業者が親しく印度に渡つて、其日常生活に接觸し、人情風俗は勿論、商品に對する嗜好を研究し、又此に對する充分なる理解を得せしむる爲め懇切鄭重なる説明を與へ、彼等の不安を一掃し、取引に關し絕對の安心を得せしめたる賜にして、此一例を見るも海外觀察が業界の爲に如何に重要な意義を有るやは明である。

今試みに愛知縣莫大小同業組合の海外觀察に關する計畫及實施を示せば左の如くである。

- 一 計 畫 大正十二年十一月十五日
- 一 實 施 者 三重縣三重郡四郷村室山 伊藤メリヤス株式会社
- 一 目 的 輸出メリヤス商況觀察並に販路擴張
- 一 旅 費 豫 算 蘭領印度、英領印度、海峽植民地、スマトラ、爪哇
四千五百圓（一人ニ付）
- 一 期 間 三 千 圓 滯 在 費
千 五 百 圓 汽 船 賃
- 一 實 施 者 往復八ヶ月間 伊藤メリヤス株式会社
支配人 友井春吉

一計	畫	大正十二年十一月二十七日
一計	畫者	愛知県莫大小同業組合
一實	施	都合ニヨリ實施セラレズ
一日	的	輸出メリヤス商況觀察並に販路擴張
一期	的	北滿地方、天津、北京、漢口、上海
一旅	費	往復一ヶ月間
一算	豫	八百五十圓(一人ニ付)

内 譯

金四百圓 旅 費

金四百五十圓 滞在 費

七、専用原糸紡績の必要

莫大小の原糸は、燃少なく品質上等なる糸を用ふるのが普通であるが、價格の點に於て、又需要の點に於て、未だ營業者が紡績會社をして、斯の如き糸を紡出せしむる迄に立至らない、然るに糸の摺と糸節の多少は、製品の品質及び針の破損に大なる關係を有し下等格安の糸必ずしも、有利ならざる事は上述の理由が明に立證して居る、故に、營業者は、東西相一致して、是非とも特別の莫大小用原糸を紡出せしむる紡績會社に當るべきである。

今や本邦に於ても、需要者は上等品を愛用する傾向に赴き、それが爲に舶來品又は、舶來糸によつて製造せられた上等物が非常なる勢を以て發展しつゝある今日、原糸の選擇は決して等閑に付すべきものではないのである。

現今の如く莫大小の生産高多額に上るに於ては、専用紡績業の出現は充分可能性がある、現に東京にベツチン専用原糸を約一萬錠の機械によつて紡績して居るが、需要者、供給者相互的に非常に有利なる關係を保つて居る故に、鐘紡、東洋紡等の大なる工場に依頼せずして、一萬乃至二萬錠を有する専門紡績業者の出現は、斯界の爲の最も有利なる事業として睨みせられて居る次第である。

斯の如く觀じ來る時は、莫大小専用原糸の紡績は、頗る有利なると共に之が専門製造業の實現にも充分可能性を有する事は、明なる次第であるが、之が實現には、是非とも莫大小業者の利害得失的の自覺に依らざる業者の合同的努力に據らなければならぬ次第であるが、需給供給上の關係に鑑みて單に一部の業者の協力のみにては、其實現は困難なるものがある、何としても業者の全國的大同團結に俟たねばならぬ、而して一歩進んで莫大小製造關係業者が自己等の事業の必要發展に基調して、自ら専用原糸の製造事業を經營し所謂原料の自給自足主義まで行かなければ徹底的效果を擧ぐる事は至難と云はねばならぬ、斯して始て、一般紡績業者の羈絆から離脱して、眞の獨立自營の境地に立脚し得ると謂ふべきである。

八、輸出取引の改善

本市製品の莫大小の輸出販賣に關しては、直取引は、殆んど絶無にして、其多くは、販、神地方の商人の

手を経て海外に輸出せられ居る次第なるが、中には海外のエゼント(代理商)との間に取引せらるゝものもある、今海外取引の方法上に於ける改善すべき一端を挙すれば、自己の製品をして、其市場に永遠的の販路を保たしめんことを欲せば、自信ある製品にマニクを附し、信頼すべき代理商を定めて賣込めしむる事が肝要である。

従来如く製品が少しく市場に認められ、他より注文が来れば、其代理商を差遣き、幾何にても引受け製造すれば、同市場に於て同一製品が競争の姿となりて、安價に賣らんが爲めに、或者は製品の量目を軽減し、或者は寸法を短縮して原價を低廉ならしめんことを強要せられ、製造者は其結果の恐るべきに想到せず、一時に賣行の盛なるに膨脹し其要求に應じて何程にても注文に應ずるのである。

斯る不真摯なる取引を數回重ね居る内に、最初賣込みたる信用も零となり遂には最初の代理商も愛想を盡かし、取引を拒絶するに至り、製造業者は自縄自縛に陥り、又如何ともすること能はざる立場となるのである。

本邦商人の通弊として、一度代理商を定むるも、少しく其製品賣込めらるれば、何人の注文にも應じて商業道德を無視するが故に、代理商も亦真味に努力しない。若し其の辦を改め、最初より確かなる代理商を撰んで、之に一切の事を任せ置けば、絶ず變遷する市場の状況、嗜好の變遷等を通報し、色合、仕立方等も指圖して來るから、永遠に維持し得るのみならず、漸次販路も擴張せらるゝ譯である。

若し色物の取合せ等にて、中に一色嗜好に適合せず、又は流行後れのもの exchanged 一打の價格に非常の相違があるから、此等の變遷を絶えず注意して居らねばならぬ、それは自己の店員を派出し敢かざる限り、

代理商の力に依つて外ないのである。

代理商に依らざる直輸出も必ずしも悪くはないが、東洋、南洋市場には、支那人の勢力頗る根強きものがあつた故、有力なる商社を代理商として託するか新嘉坡、瓜哇、比律賓等では、支那人が若くば、日本人の土着者を代理商に定むるが利益である、若し然らずして、單に其日其時の中間商人に依れば、彼等は自己の利益を得んが爲には、日本の商品が不評を招くとか、賣行が減るとか云ふが如きことは問題として居ないのである。

前記の如く安く賣らんが爲めには、品質を低落せしめて、一時の暴利を貪らんとするが如き行爲を爲するのである、故に製造業者に於て自覺し、縱令多少の時日を要するも、確實なる取引方法に依り、永遠の販路を開拓維持するに努むべきである。

要するに検査、方法の改善と相俟つて、取引方法を一新することが、我英大小輸出に對する刻下の急務で、如何に製品の改良を企圖するも、取引の方法を誤れば其効果を収むることは困難であると思ふ。

九、綿糸關稅撤廢について

綿糸關稅撤廢は屢々論議せらるゝ重要な問題である、今本市斯業者の此に對する意見は結局即時撤廢論である、其論旨は大體次の如くである。

「本邦の紡績業の發達を助成する爲め、政府は輸入綿糸に關稅を課して居る、未だ斯業の幼稚なる時代は保護關稅も必要であつたらうが、今日の如く最早充分發達し、其經濟上の立場に就いて觀るも、原綿を信

展を期する事は出来な、本市の莫大小業も大正九年一般經濟界の恐慌以來打續く不況の爲め製造業者は資金は缺乏を來し、其後幸ふじて景氣挽回に向ひ、時に海外より大注文に接したる事ありしも、資金缺乏のため十分此に應ずることが出来ぬ不幸に沈淪して居るので、當業者は不動産を擔保として勸業銀行、興業銀行等に交渉しても、此等銀行は大日に貸出して餘裕なく、實際の工業として機械を運轉して居る工場に對しては融通不可儀の状態に在る、個々繰返を求めて利巧に借出し得るとするも、百萬圓の擔保に對し僅々二十萬乃至三十萬圓のごと過ぎぬ、又普通銀行は言ふ迄もなく資金不足の今日到底此等の工業主に貸出さぬのである、斯る次第にて製造家は金融上頗る困難な立場に在る、搦て加へて大正九年の恐慌以來從來の綿糸の貸出賣を廢止したが、更に昨年綿糸商の團體たる大阪綿糸同盟會は、會の決議を以て今後當業者の信用の有害に拘らず一切現金取引とし、若し違反するものなれば違約金を課することとなしたる爲め綿糸商よりの原料融通が全く杜絶し、左なきに金融梗塞に苦んで居る斯業は一層其製造に困難を感ずるに至つたのである。

然るに一方紡績業者は就て見るに原料棉花は、六十日乃至九十日のサイドで買入れ而して棉花商又は爲替銀行より十分の便宜を與へられて居る、斯く紡績業者は原料を借りて其製品は現金で賣る故に資金は常に豊富である、莫大小業は全然此と反對で原料を現金で仕入れ其製品は延取引である、若し紡績業の如く原料買入に便宜があるならば、更に一層の發展を期することが出来る事と考へられる。

政府は此邊の内地を斟酌し原料の買入にも低利資金融通供給の途を開き又は組合等に於て於て完全なる仕上機械等を買入れ此が整理を一手に行ふなれば其進展を助成し國家産業上に甚大なる効果を奏すものと思ふ。

以上は斯業者の金融に關する意見であるが、目下我國産業状態に鑑みる時は一層其感を切にする次第で、金利引下げ促進運動の擡頭せるが如き寧ろ當然の歸結と云ふべきである。

十一、毛莫大小に就て

近來毛莫大小製品に對する需要は著しく増加し來り、此が或程度の市價を以て供給せらるゝとせば今後益需要の増加して一般に普及すべきは明である。

毛莫大小製品の密接に需要せらるゝ爲めには前述せし如く或程度の市價を以て供給せらるゝ事が必要であるが、此と極めて密接な關係のあるのは原糸の市價である。

從來我國に於て紡績せらるゝ毛莫大小の原糸即ち編糸は、其數量頗る微々たるものにて一般に使用されて居るのは、日本毛織株式會社にて紡績せらるゝ λ 10と稱する糸であるが、是のみにては到底内地の需要を充足するを以て、英吉利、獨逸、佛蘭西等より輸入せられ其額は逐年多額に上つて居る。

輸入編糸中最需要の多いのは、英國製なるも、此は脂の含有量多く且つ質量と仕切書面の重量との差俗に減目があつたのでセル糸、モス糸としては餘り歓迎せられぬやうである。

佛蘭西品は脂の含有量、比較的少く且つ重量正確なる爲め近年需要が増加しつゝある。佛蘭西品は番にメリヤス用編糸のみならず一般に品質優秀なるも、高價のため廣く需要せらるゝに至らな、斯業者は實需期より三四ヶ月前に不確實なる賣行豫想と製品市價の不安なる先見を基として、相當

數量の契約を爲しつゝあるが其危険は想半に過ぐるものがある。

斯の如く斯業者が原糸の市價に對して幾多の危機を成じつゝあるは、斯業の發展上好まからず、斯かる障害を除却して毛莫大小製品を安全ならしむる事は頗る重要である、此が爲には業者をして其が實需期に可及的接近したる時期に於て、所要の原糸を注文せしむる事が策の得たるものであるが、斯の如きは、原糸を輸入する場合に於て殆ど不可能なるを以て、どこまでも内地に在る毛糸紡績會社を動かして國內に於て原料の自給策を講ずるのは最捷徑なりと思はれる、而して國民經濟の見地からして最適當たらうと考へられたる毛莫大小原糸の三十二番二子一封度の市價は三圓乃至三圓三十錢である。

毛莫大小紡績機の發明はコットン氏にして俗に毛莫大小のシャットボーン等をコットン式と稱して居る、現今我國の水田メリヤス機械株式會社の製作に係るものは、外國製と何等の遜色なく實行に頗る盛んである。要するに本市毛莫大小は最近長足の進展を爲し、特に昨年来子供服、等従来手編に委ねられて居た意匠を用ひたるものが、機械編によつて製出せられたるは注目し價する次第にして、本市の毛莫大小製造は前途頗る有望なりと斷言して擧げないであらう。

次に本市メリヤスの最近三ヶ年間の生産額及全生産額に對する割合を示せば次の如くである。

年度	生産額	メリヤス生産額	割合	メリヤス生産額	割合
大正十年	八、六七九、三〇四	七、八七九、三〇四	九割一分	八〇〇、〇〇〇	約九分
同 十一年	八、四九〇、九五四	七、五九〇、九五四	八割九分	九〇〇、〇〇〇	約一分
同 十二年	九、〇六〇、二六八	七、五六〇、二六八	八割四分	一、五〇〇、〇〇〇	約二割六分

十二、絹莫大小製産の有量

メリヤスに關連して大に研究を要するのは絹メリヤス製造の問題にして、已に述べたる如く莫大小に對する需要の一般的傾向は細物に向つて居るのである、斯かる現象は取も直さず膚觸り良き製品に對する嗜好を意味して居るので、經濟的事情にして許すならば、従來の絹莫大小細手物に對する需要は、全部メリヤス又は絹メリヤスに向ふのは敢て多言を要せざる次第である。

加之一面國家産業の見地に立ちて觀するも、我國物産の最も重要なる地位を占むる生糸が米國を唯一の顧客とし、而かも其大部分が原料として輸出せられ、之が輸出の消長は常に斯界に對して大なる反響を齎すのみならず、我國一般財界の情勢を左右するが如き一大勢力を有するが如きは、我國産業の受動的消極的態勢を最難辯に物語るものにして、邦家の爲に實に由々敷大事たるを挾はぬのである。

斯の如く、我國の生糸界の商況が絶えず不安と危険とに展はれて居るを以て加へて、最近佛國、及び支那の生糸業は非常の發展を來し、之が爲め我國の斯界は一大脅威を受けつゝあるは明なる事實にして、又米國に於ける人造絹糸の發達は、實に我國生糸界に對する一大勁敵の出現なりと斷ずるも相違ないと思はれるのである。

我國生糸界の前途には幾多の暗礁のある事は、國民の齊しく覺悟すべきことだと共に此が對策は大に考究を要する問題である。

原料として即ち生糸を輸出するよりも、之に加工して精製品として輸出するの有利なるは、敢て識者を俟

つて始て知るべき程の事ではない、故に生糸加工業の発展を計るは國家産業上焦眉の急務である。此意味に於て絹メリヤスの製造の如きは大に其當を得たる企業たると共に國際經濟の立場に於ても我國工業の情勢に統合し將來益々有望なる事業である。

尙一步退て本市英大小界の立場より觀察するに從來本市製綿メリヤスの顧客たる支那に於ては、近來メリヤス業の發展著しきため、此地方に對する輸出は一大頓挫を來し、此處綿メリヤス本物の輸出は殆ど絶望の狀態に陥つた爲め、業者は勢ひ天竺細物の生産に力を傾注せざるべからざるに至つたのであるが、此とても英領印度の一部に限られて居る等の關係上、前途餘りに樂觀を許さぬ狀態である。

輸出向綿メリヤスの情況は斯の如くであるけれども、一度絹メリヤスの製造に成功せんか此が需要は常に英本國に止らず、殆ど全世界に及び得る次第であるから、斯業者が此に向つて邁進すべきは急務中の急務にして、一面國家産業上の欠缺を補ふ意味に於ても重要であるが、就中一昨年之震災によつて從來我國に於ける絹メリヤスの主要産地たる横濱地方が全滅し爾來其復興の捗らざる今日に於て一層其必要を感ずる次第である。

見よ、彼の大倉喜八郎氏が老齡の身を以て餘生を國家産業の開發に捧げて近く支那大陸に向つて一大飛躍を試み工業の發展上必要缺くべからざる製鐵事業の經營は勿論渺々たる大陸に於て一大牧羊事業を經營して我國羊毛工業に對して自給自足の大策を確立せんとする一大抱負あると云ふが如き實に其方途の積極的なるは頂門の一針と云ふべきである、本市斯業者たるもの宜しく時代の趨勢に着目し從來の如く舊套を墨守し所謂株を守つて兎を待つゝ類たらざるを切に望む次第である。

四、結 論

莫大小事業の國家的産業上有望なるは、今更論を俟ざる處である、而して此間にありて、名古屋莫大小が如何なる位置を占有するか、將又將來に向つて如何程の發展の餘地を有するかは、前述の本市斯業の過去現在を通じて將來とすると依つて明なるものがある、此前途洋々たる斯業をして、向上發展せしむる事は、結局本市當業者が眞に莫大小業の有望なるを自覺し、常に大局より遠觀して、一時的目前の小利害の我執より脱却して莫大小業者は打つて一九となり本市斯業の長所は洵く迄之を助長せしめ短所は立らう之が矯正に努力し勇往邁進する處あらば斯業の健全なる發達は期して俟つべきものがあると思ふのである。

